

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|--|----------|----------------|
| 科目名 | インターンシップ I | 科目ナンバリング | T03F22068 |
| 担当者氏名 | 大江 実代子, 關 浩和, 赤井 利行, 井上 朋子, 河野 楢, 林 敦司 | 担当形態 | 共担 |
| 授業方法 | 実習 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ 通年 (I 期) |

《授業の概要》

学校教育現場におけるインターンシップおよび事前事後の学内授業を通して、学問知（理論知）と実践知の往還を目指す。学校現場では、児童理解を一層深めるとともに、教員の役割や使命、職務を知る。また、指導の具体に触れ、指導者としての視点を学ぶ。特に、実習後に行う報告会では、他の学習者と指導のあり方について意見を交流することを重視し、次年度以降の教育実習・保育実習に生かすというプロセスを踏む。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《参考図書》

文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』，小学校学習指導要領
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こ

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|-----------------------------|--|
| ◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力 | 地域の多様な人たちと関わりをもち、幼児や児童への言葉かけや行動に着目し、効果的な指導のあり方を探究して地 |
| ○ 1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力 | 教育者としての自覚をもち、特別な配慮を要する幼児や児童の指導も含めて、効果的な指導のあり方を探究して、教 |
| ○ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力 | 教育者としての自覚をもち、保育や授業の準備物、板書、発問等に注目して、幼児や児童の学びに学級経営が密接に |
| | |
| | |

《授業外学習》

- ・新聞、テレビ、Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち、教師の視点で問題を捉える。
- ・小学校、幼稚園教育の指導に関する文献にあたり、多角的な視点をもって、実習に臨む。
- ・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《学習状況・理解度の確認》

- ・インターンシップにおいて学んだことを整理して、報告会において個々の学びを交流することで学びをさらに深化させ、次年度以降に実施される教育実習において発展させる。

《備考》

- ・多角的な視点で教師の指導を観察し、指導のポイントを押さえる。Internship I

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法 (%) | |
|----------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 50 |
| 発表・実技 | 50 |
| 授業内課題 | 0 |
| その他 () | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-----------------|--|----------------|-----------|
| 1 | インターンシップガイダンス | インターンシップの心得として、意義、目的、留意事項を確認し、各種必要書類の作成を行う。 | 実施校について調べておく。 | 45 |
| 2 | 指導者の視点 | 指導者がどのような心構えで授業を展開したり生徒指導を行ったりするのか、指導者の視点をキーワードに考える。 | 内容や流れを確認し、考察す | 45 |
| 3 | インターンシップ実践 1 | 幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。 | 遊びを中心にふれあいについて | 120 |
| 4 | インターンシップ実践 2 | 幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。 | 実習記録記載 | 45 |
| 5 | インターンシップ実践 3 | 幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 6 | インターンシップ実践 4 | 幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 7 | インターンシップ実践 5 | 幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 8 | インターンシップ実践 6 | 幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 9 | インターンシップ実践 7 | 幼稚園、小学校において、主として、校務分掌についてその職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 10 | インターンシップ実践 8 | 幼稚園、小学校において、主として、校務分掌についてその職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 11 | インターンシップ実践 9 | 幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方を学び、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 12 | インターンシップ実践 10 | 幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方を学び、記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 13 | インターンシップリフレクション | 幼稚園、小学校において、視点を変えて観察したことを振り返りながらまとめ、報告会の準備をする。 | 実習記録記載 | 60 |
| 14 | インターンシップ報告会 1 | 「報告書」をもとに学びの交流を行う。（グループ） | 交流を通して新たな気づきや発 | 60 |
| 15 | インターンシップ報告会 2 | 「報告書」をもとに学びの交流を行う。（全体） | 交流を通して新たな気づきや発 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---|----------|------------------------|
| 科目名 | ふれあい体験活動 | | | 科目ナンバリング | T03F21067 |
| 担当者氏名 | 大江 実代子, 石川 恵美, 磯野 久美子 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 実習 | 単位・必選 | 1 | ・ 選 | 開講年次・開講期 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

・本授業では、幼稚園・小学校において、子どもたちとのふれあいを中心とし、見学・観察・参加の体験を通して児童理解を深め、教員となる意欲と構えを養う。

《授業外学習》

・新聞、テレビ、Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち、教師として問題を捉える。
・多角的な視点を持ち「子どもとのふれあい」について調べる。
・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・実習校において授業や生徒指導等、観察したことや考察を加えた実習記録を確認し返却する。

《参考図書》

文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領』、文部科学省 (2017) 『学習指導要領』

《備考》

・実習
・実習前後の学内での授業では、グループワークを行い実習を交流することで、学びを共有する。
卒業生は小学校校長経験のよう実務経験者

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|---------------------------|--|
| ◎ | 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力 | 教師は、子どもたちをよく観察し、意味を持って指示や促し・評価等、状況や場面により、様々な働きかけることを |
| ○ | 1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力 | 教師のことばかけ、子どもへのかかわり方などを直接見聞きすることで、愛情をもって子どもに接する大切さを理解 |
| ○ | 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力 | 学校が運営されるには、学級担任だけでなく、養護、音楽などの専科や事務、用務などの様々な立場の人が責任を |
| | | |
| | | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法 (%) | |
|----------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 50 |
| 発表・実技 | 30 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他 () | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-------------|--|----------------|-----------|
| 1 | 実習の目的 | ふれあい体験活動の意義と目的を確認する。 | 意義と目的、実習への抱負をま | 45 |
| 2 | 実習の内容・流れ | ふれあい体験活動の内容や全体の流れを知り心構えを確認する。 | 内容や流れを確認し、考察す | 45 |
| 3 | 子どもとのふれあい 1 | 子どもとのふれあい方についてグループワークの形式で検討する。 | 遊びを中心にふれあいについて | 120 |
| 4 | 子どもとのふれあい 2 | 子どもとのふれあい方や現地での挨拶をプレゼンテーションする。 | 観察の視点を確認する。 | 45 |
| 5 | ふれあい体験活動 1 | 幼稚園・小学校において、主として、遊びを通して子どもたちの言動、友だち関係などを観察する。 | 実習への心構えを確認する。 | 45 |
| 6 | ふれあい体験活動 2 | 幼稚園・小学校において、主として、遊びを通して子どもの友だち関係などを観察する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 7 | ふれあい体験活動 3 | 幼稚園・小学校において、主として朝の会や終わりの会、給食などの学校生活の流れを観察する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 8 | ふれあい体験活動 4 | 幼稚園・小学校において、主として特別活動の時間や特別の教科道徳の時間の学習の流れを観察する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 9 | ふれあい体験活動 5 | 幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、指導者（教師）の発問や板書を観察する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 10 | ふれあい体験活動 6 | 幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、指導者（教師）の個々への配慮等を観察する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 11 | ふれあい体験活動 7 | 幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの反応を観察する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 12 | ふれあい体験活動 8 | 幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの様子を記録する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 13 | ふれあい体験活動 9 | 幼稚園・小学校において、自分なりの視点を決めて観察を深める。 | 実習記録記載 | 60 |
| 14 | ふれあい体験活動 10 | 幼稚園・小学校において、視点を変えて観察したことを記録し、多角的な視点について考察する。 | 実習記録記載 | 60 |
| 15 | 実習の振り返り | 実習記録をもとにふれあい体験活動を振り返る。 | 自分にとってのふれあい体験活 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|---|-------|---|----------|-----------------------|
| 科目名 | 音楽 I | | | 科目ナンバリング | T02S21021 |
| 担当者氏名 | 井上 朋子, 立本 十寿子, 津田 安紀子, 中條 裕子, 前北 恵美, 佐藤 亜衣, 松岡 祐子 | | | 担当形態 | 共担 |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 1 | ・ 選 | 開講年次・開講期 1 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

本授業では、個人レッスンと集団授業を組み合わせながら、幼児教育及び小学校教育の現場で必要となる音楽の基礎的な知識と技能を身に付けます。個人レッスンでは、個々のレベルに合った楽曲に取り組み、ピアノと弾き歌いの技能の修得を目指します。また、集団授業では、読譜に必要な知識を身に付けるとともに、独唱や合唱などの演習を通じて歌唱表現に関する知識と技能を修得します。

《テキスト》

『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社
①～③のいずれかを使用。初回授業時に指示します。
①『改訂 ポケットいっぱいのおた 実践 子どものうた 簡単に』

《参考図書》

『ブルグミュラー25の練習曲』全音楽譜出版社
『ソナチネアルバム1』全音楽譜出版社

《授業外学習》

・音楽実技の向上には日々の練習が欠かせません。課題を確実に練習した上で、授業に臨みましょう。

《学習状況・理解度の確認》

・課題一覧表に基づいて、各自のレベルに応じた楽曲に取り組みます。毎回のレッスンの中で、アドバイスを伝えるとともに、成果発表後には、全体講評と個別の講評を行います。

《備考》

・ML教室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること
・ICT活用双方向型授業

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|--------------------------------|---|
| ○ | 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する | 読譜に必要な知識を身につけるとともに、保育・教育現場で必要となる基礎的なピアノ技能及び歌唱技能を身につける |
| ◎ | 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 表現豊かなピアノ演奏や歌唱表現ができるよう、自分なりに工夫することができる。 |
| | | |
| | | |
| | | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 25 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 65 |
| 授業内課題 | 10 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------|---|--------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】楽典の理解度の確認 | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 2 | 個人レッスンと楽典の理解① | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】譜表と音名 | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 3 | 個人レッスンと楽典の理解② | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】音符と休符 | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 4 | 個人レッスンと楽典の理解③ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】拍子とリズム | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 5 | 個人レッスンと楽典の理解④ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】音程 | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 6 | 個人レッスンと楽典の理解⑤ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】長調と短調 | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 7 | 個人レッスンと楽典の理解⑥ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】反復記号、強弱記号 | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 8 | 個人レッスンと楽典の理解⑦ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】その他の音楽記号、音楽用語 | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 9 | 個人レッスンと楽典の理解⑧ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】楽典のテスト | ピアノの練習と楽典の復習 | 120 |
| 10 | 個人レッスンと歌① | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】声の出し方 | ピアノと歌の練習 | 120 |
| 11 | 個人レッスンと歌② | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】歌の表現方法について① | ピアノと歌の練習 | 120 |
| 12 | 個人レッスンと歌③ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】歌の表現方法について② | ピアノと歌の練習 | 120 |
| 13 | 個人レッスンと歌④ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】合唱と指揮法① | ピアノと歌の練習 | 120 |
| 14 | 個人レッスンと歌⑤ | 【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】合唱と指揮法② | ピアノと歌の練習 | 120 |
| 15 | 成果発表 | ピアノ、弾き歌いの成果発表 | ピアノと歌の練習 | 120 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|---------------|-------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 学校教育におけるICT活用 | | | 科目ナンバリング | T03S11073 |
| 担当者氏名 | 森下 博 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2 | ・ 必 | 1年・Ⅱ期 |

《授業の概要》

学校教育においてGIGAスクール構想が進み、児童生徒1人1台のPCやタブレット端末を用いた教育環境が整ってきました。ICT環境の充実とともに、校務および授業の教材開発に関わる上でのICTスキルの向上が求められます。学校教育のあらゆる場を想定しながら、各種アプリケーションソフトを用いたICT活用により、知識と技術を身につけます。各教科の指導においても効果的なICT活用ができることを目指し、深い学びにつながる可能性を探ります。

《テキスト》

授業では、eラーニングサーバを活用し、作成した資料を提示します。さまざまなメディアによるコンテンツにもふれてもらいます。

《参考図書》

高橋参吉編著、高橋朋子・下倉雅行・小野淳・田中規久雄著、2021、『教職・情報機器の操作 -ICTを活用した教材開発・授業設計-』コロナ社

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|---------------------------------|--|
| ◎ | 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | ワープロソフトの機能や役割を理解し、校務や授業教材などの文書作成が行える。 |
| | | 表計算ソフトの機能や役割を理解し、正確で効率的な集計処理が行える。 |
| | | プレゼンソフトの機能や役割を理解し、視覚的に見せる教材資料の開発が行える。 |
| ○ | 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力 | 遠隔授業のための環境を整えて、授業の設計ならびにその実践が行える。 |
| | | 探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につけ、適切なICT活用ができる。 |

《授業外学習》

eラーニングサーバを活用しますので、いつでもどこでも端末からアクセスして配布資料の取得や課題の提出などが可能です。学んだ内容については、理解を深めながら確実に身につくよう授業外でもしっかり復習して下さい。正解が一つしかないような課題ではなく、多様なものの考え方やその表現をテーマとした課題に取り組みます。スキルを活かした処理と思通りの表現ができるよう、自主的な学習の取り組みに期待します。

《学習状況・理解度の確認》

その日の学習内容の進捗状況と理解度を把握するための提出をおこなってもらいます。フィードバックの内容を次に活かして下さい。分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

ICTの特徴や方法を理解した上で、適切なICTの活用ができるように努めてもらいたと思います。スキルの向上とともに効果的な教材開発につなげられるとよいです。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 40 |
| 発表・実技 | 30 |
| 授業内課題 | 30 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------|---|-----------|-----------|
| 1 | 授業概要と展開方法 | 授業の概要や展開の方法を説明する。学校教育における具体的なICT活用の事例について紹介する。 | 授業展開の把握 | 60 |
| 2 | 文書作成のためのICT活用 | 文書作成のためのワープロソフト活用の基礎を身につける。文書完成までのICTリテラシーについて学ぶ。 | ワープロソフト | 90 |
| 3 | 校務文書の作成と編集 | 校務文書作成の演習を通じてその書式や型を理解する。そのための正しい編集や美しい装飾の仕方について学ぶ。 | 校務の文書作成 | 90 |
| 4 | 教材資料の作成と表現 | 教材資料作成の演習を通じて効果的な伝え方を理解する。そのための表や図を含む視覚的な表現について学ぶ。 | 教材の文書作成 | 90 |
| 5 | 集計処理のためのICT活用 | 集計処理のための表計算ソフトの活用の基礎を身につける。シート上で正しいデータの入力と整理の仕方について学ぶ。 | 表計算ソフト | 90 |
| 6 | データの処理と視覚化 | 集計処理シート制作の演習を通じて表の効率的な計算方法を理解する。各種グラフの特徴に基づく視覚化について学ぶ。 | シートの作成 | 90 |
| 7 | アプリ間連携と効率化 | 報告文書制作の演習を通じて表計算ソフトとワープロソフトとの連携を理解する。これによる処理の効率化について学ぶ。 | アプリ間連携 | 90 |
| 8 | 教材開発のためのICT活用 | 教材開発のためのプレゼンソフトの活用の基礎を身につける。スライドに取り込む各種メディアとコンテンツについて学ぶ。 | プレゼンソフト | 90 |
| 9 | 視覚的なスライド制作 | 教材スライド開発の演習を通じてスライドの見せ方を理解する。効果的なアニメーションの設定や使い方について学ぶ。 | 視覚的な効果 | 90 |
| 10 | 動画による教材の開発 | 動画教材の開発の演習を通じて音声を含む動画の制作過程を理解する。動画を用いた学習効果について学ぶ。 | 動画の教材作成 | 90 |
| 11 | 遠隔授業のためのICT活用 | 遠隔授業のための双方向通信ツールの活用の基礎を身につける。音声と映像のスムーズなやりとりの仕方について学ぶ。 | 遠隔授業の環境 | 90 |
| 12 | オンライン授業の設計 | 遠隔授業で使用できるメディアコンテンツを理解する。オンライン授業のための設計について学ぶ。 | 各種メディア | 90 |
| 13 | オンライン授業の実践 | 遠隔授業の実践を通じて効果的な機能を理解する。オンラインにおけるチャットの活用やグループ学習の展開について学ぶ。 | 協働学習 | 90 |
| 14 | 探究学習のためのICT活用 | 探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につける。プログラミング的思考と適切なICT活用の方法について学ぶ。 | 探究的な学習 | 90 |
| 15 | 授業総括と振り返り | 学校教育におけるICT活用を振り返る。ICTを活用できる場面を想定した各教科への適用について考える。 | 授業の振り返り | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|-------------------|-------|---|----------|---------------------|
| 科目名 | 教育におけるICT活用の理論と方法 | | | 科目ナンバリング | T04L22097 |
| 担当者氏名 | 河野 稔 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 2年 ・ I期 |

《授業の概要》

児童生徒1人1台端末による学習環境が整備され、ICT（情報通信技術）による個別最適な学びと協働的な学びが実現できるようになった。この科目は、主体的・対話的な深い学びの実現のためのICT活用指導力の養成を目指し、ICTを活用した学習活動の意義を理解し、学習場面に応じたICTを活用した授業の設計と準備、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法、教師や学校を支援するツールとしてのICTの活用について学ぶ。また、各教科等のデジタル教材を作成する演習にも取り組む。

《テキスト》

稲垣忠・佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践』北大路書房
文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引き-追補版-』

《参考図書》

稲垣忠編著（2022）『教育の方法と技術 Ver.2（改訂版）』北大路書房、文部科学省『教育の情報化の推進』、文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 総則編』等

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|--------------------------------|--|
| ◎ | 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 情報社会の進展に伴うICTを活用した教育の意義と教育データを活用した個別最適な学び等の将来像を説明できる。 学校のICT環境の整備に伴う、校務の情報化や外部人材などの活用、情報セキュリティ対策のあり方を説明できる。 |
| ○ | 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | オンライン教育を含めた学習場面に応じて、ICTを効果的に活用した授業を計画し、デジタル教材を作成できる。 |
| ○ | 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する | 各教科等の特性に応じて、児童生徒がICTを活用して個別あるいは協働的に学ぶための基本的な指導法を説明できる。 |

《授業外学習》

予習では、毎回の授業までに、テキストの該当箇所、あるいは、LMS（学習支援システム）で公開されるプリントを事前に通読すること。復習では、毎回の授業のテーマに沿った課題に取り組むこと。デジタル教材の教材企画書の作成、教材の作成とその発表は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループのメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくにデジタル教材の作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 30 |
| 発表・実技 | 30 |
| 授業内課題 | 40 |
| その他（ ） | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------------------|---|--------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 教育の情報化とGIGAスクール構想の現状を確認し、現代社会におけるICTの役割、ICTを活用した教育の意義を概観する。 | テキスト第1章を通読 | 45 |
| 2 | 教育における視聴覚メディアとコンピュータ活用の展開 | 視聴覚メディアとコンピュータの学校教育での歴史的展開を理解し、学校でのメディアと技術の活用を議論する。 | テキスト第2～3章、第7章を通読 | 60 |
| 3 | 教師のICT活用指導力とデジタルコンテンツの活用 | デジタル教科書等のデジタルコンテンツの特性と活用のあり方を踏まえ、教師に求められるICT活用指導力を理解する。 | テキスト第5章、第8～9章を通読 | 90 |
| 4 | 対話的な学びと個別最適な学びを支えるICT | ICTを活用した協働学習の特性や個別最適化された学びの意義を理解し、先端技術を含めた活用のあり方を議論する。 | テキスト第4章、第10～11章を通読 | 60 |
| 5 | 特別支援教育と幼児教育におけるICT活用 | 特別支援教育と幼児教育でのICT活用の意義と現状を確認し、実践事例から活用するための留意点を理解する。 | テキスト第6章、第13章を通読 | 60 |
| 6 | 遠隔授業・オンライン学習と学びの保障 | 遠隔授業やオンライン学習の特性と活用方法および著作権等の留意点を理解し、ICTによる学びの保障について議論する。 | テキスト第12章を通読 | 60 |
| 7 | 校務の情報化と教育データの活用 | 校務支援システム等による校務の情報化を理解し、教育データの種類や活用、情報セキュリティ等の課題を確認する。 | テキスト第14章を通読 | 60 |
| 8 | 児童生徒によるICT活用 | 児童生徒によるICT活用の意義と各教科における学習場面を確認し、日常的にICTを活用するための留意点を理解する。 | テキスト第15～16章を通読 | 60 |
| 9 | 情報活用能力と情報モラル教育 | 情報活用能力における情報モラル教育の位置づけを確認し、実践事例をもとに授業づくりの考え方を議論する。 | テキスト第18章を通読 | 60 |
| 10 | プログラミング教育で育成する資質・能力 | プログラミング教育のねらいや位置づけを理解して、具体的な授業方法や授業をする際の留意点を理解する。 | テキスト第17章を通読 | 90 |
| 11 | 探求を支える情報活用能力 | 探求の基盤となる資質・能力と情報活用能力の関係を確認し、学校図書館の活用等の実践事例から指導法を理解する。 | テキスト第19～20章を通読 | 90 |
| 12 | デジタル教材の作成と活用(1)教材の企画検討 | ICTを活用した教材作成として、グループで作成するデジタル教材を設計して、指導内容を企画書としてまとめる。 | 教材企画書の作成 | 120 |
| 13 | デジタル教材の作成と活用(2)教材の作成 | 実際にICT機器を使用して、グループで設計したデジタル教材を作成する。 | デジタル教材の作成 | 120 |
| 14 | デジタル教材の作成と活用(3)教材の発表と相互評価 | グループで作成したデジタル教材を発表し、共有をして相互評価をして、改善点を検討する。 | デジタル教材の作成と発表準備 | 120 |
| 15 | 全体のまとめとICT活用指導力の向上 | 教師のICT活用指導力に求められる資質・能力をまとめ、ICT活用指導力の向上とその留意点について考察する。 | ICT活用指導力チェックリストの確認 | 45 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------|-------|---|----------|-------------------|
| 科目名 | 教育の思想と原理 | | | 科目ナンバリング | T04L11082 |
| 担当者氏名 | 安喰 勇平 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 必 | 開講年次・開講期 1年・I期 |

《授業の概要》

教育は世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な背景を学びつつ、現代の教育課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。

《テキスト》

資料を配付する。

《参考図書》

小笠原道雄編『教育の哲学』放送大学教育振興会、2003年。越後哲治・田中亨胤・中島千恵編『保育・教育を考える－保育者論から教育論へ－』あいり出版、2011年。その他、授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--------------|---------------------------------------|
| | 教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な文脈を説明することができる。 |
| | 現代の教育課題に主体的に取り組むことができる。 |
| | |
| | |
| | |
| | |

《授業外学習》

- ・ 授業前に配布資料を読み、学習の手引きに沿って自学自習する。
- ・ 授業後、紹介された文献や参考図書を読み、理解を深める。

《学習状況・理解度の確認》

授業中に課題作文に取り組み、知識の定着を図る。課題作文に対するコメントから自分の理解度を確認し、次の学習への動機づけを得る。

《備考》

- ・ グループワークやディスカッションを行う。
- ・ 意欲的に授業に参加することを期待する。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 50 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 50 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|------------------------|--|-------------|-----------|
| 1 | 教育をめぐる現代的課題 | 一般的な教育言説を確認しながら、教育を根本的に問うための方法を学ぶ。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 2 | 学校をめぐる現代的課題 | 学校をめぐる問題が山積している点を確認しながら、学校の存在意義を問うための方法を学ぶ。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 3 | 教育の語義 | すでに経験している日常の教育を振り返りつつ、教育の語義を確認する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 4 | 教育の目的・目標 | 教育基本法に定められた教育目的、教育目標を確認しながら、その具体的な内容を事例に即して検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 5 | 人間性とは何かという問いの歴史的・社会的文脈 | 人間性とは何かという問いの歴史的・社会的な意味を、古代ギリシア・ローマの時代にさかのぼって検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 6 | 学校の起源 | 文字によって体系化・集約化された知識を教授・学習する場として、学校が成立した点を確認する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 7 | 大学の成立と庶民のための学校の誕生 | 12世紀のヨーロッパで大学が成立し、16世紀のルターが庶民のための学校を構想した歴史的経緯を学ぶ。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 8 | 人間の教育必要性の意味 | 社会から隔離されて育ち、教育の機会を奪われた野生児の事例から、人間の教育必要性の意味を検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 9 | 子どもへの教育的まなざしの成立 | ルソーの教育思想やアリエスの歴史研究から、子どもに注がれる教育的まなざしの意味を検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 10 | 家庭教育の意味 | 家庭教育の歴史的・社会的な意味を確認しながら、現代における家族や家庭生活の問題を検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 11 | 近代公教育の理念と制度 | 学校が公の性質を持つようになった歴史的経緯を跡づけながら、啓蒙主義と学校教育制度の問題を検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 12 | 統一学校運動と新教育運動 | 19-20世紀転換期のヨーロッパで起こった統一学校運動と新教育運動の理念と実際を検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 13 | 学校化社会の限界 | 学校教育を自明視する学校化社会、学歴を社会におけるステータスシンボルとみなす学歴社会の限界を検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 14 | 生涯学習社会における学校の役割 | 教育は生涯にわたって継続するものであるという観点から、生涯学習社会における学校の役割を検討する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |
| 15 | 情報・消費社会における教育と学校 | 情報メディアによって人々の欲望が刺激され、消費が促される社会で、教育と学校には何ができるのかを展望する。 | 資料に基づく学習と作文 | 90 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|-------|----------|------------|
| 科目名 | 教育課程論 | 科目ナンバリング | T04L11091 |
| 担当者氏名 | 關 浩和 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 必 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになってきている。学校づくりの核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。本講義では、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史の変遷を実践的視点からその諸理論を概観して、今日の教育改革や教育課程改革を理解し、そこに潜む問題や課題を把握し、新しい学校教育の展開と特色ある教育課程についてあり方について学ぶ。

《テキスト》

關浩和（2023）『教育課程論研究』吉本宝文堂，176p.
初回の講義の時に配付します。
頒布価格 1,000円。受講生は、必ず購入してください。

《参考図書》

- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領』、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』を適宜参照する。
- ・授業の中で、適宜プリントを配付する。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------|--|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 教育課程の構造や教育課程開発理論，編成原理に関する基礎知識及びその関連性を説明することができる。 |
| ○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力 | 社会的背景を加味して学習指導要領の歴史の変遷を説明したり，カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割に |
| | |
| | |
| | |

《授業外学習》

- ・講義ノートを準備して、授業外で必ずテキストを読み、予習・復習を行い、毎回の講義内容の整理を行い、講義ノートにまとめることで各自1冊のノート（＝ポートフォリオ）づくりを行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

- ・講義ノートを適宜点検します。
- ・分からないことは、適宜質問を受け付ける。

《備考》

- ・受講者には、主体的に授業に参加することを期待する。
Education Curriculum Theory

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|-------------------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 30 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 40 |
| その他（受講ノートを点検します。） | 30 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|------------------------|---|------------------|-----------|
| 1 | 教育課程の編成原理 | 教育課程は、教育基本法や学校教育法，学校教育法施行規則，学習指導要領などに基づいて編成されていることや、「学問中心主義」と「子ども中心主義」の違いを説明することができる。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 2 | 国家主義教育課程の成立過程① | 学校制度が始まるまでの日本の古代から近世（藩校や寺子屋の教育法）に至る教育の歴史を概観する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 3 | 国家主義教育課程の成立過程② | 文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が、天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 4 | 大正期新教育運動によるカリキュラム改革 | 大正デモクラシーの時代の風潮の中で、子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 5 | 戦後「新教育」のカリキュラム改革 | 中央集権的で画一的な教育編成を改め、アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 6 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷① | 経験主義による教育内容の改造を図った昭和22年版学習指導要領について教育内容を把握した上で、各グループで分析結果をプレゼンテーション | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 7 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷② | 経験主義による4領域を打ち出して教育内容の改造を図った昭和26年版学習指導要領について教育内容を把握した上で、各グループで分析結果 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 8 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷③ | 高度経済成長時代に入り、系統主義による教育内容の改革を図った昭和33年版学習指導要領について、特徴と課題をワークショップで明らかに | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 9 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷④ | 「教育内容の現代化」を図った昭和43年版学習指導要領の歴史の変遷について社会的背景を基に読み解き、特徴と課題をワークショップで明らか | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 10 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷⑤ | 現代化カリキュラムは過密という批判の中からゆとりカリキュラムとなった昭和52年版学習指導要領の特徴と課題をワークショップで明らか | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 11 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷⑥ | 「生きる力」と「ゆとり」を打ち出した平成元年・平成10年版学習指導要領までの歴史の変遷を理解し、特徴と課題をワークショップで明らか | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 12 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷⑦ | ”最低基準性”を打ち出した学習指導要領の一部改訂の動向と背景についてケーススタディにより明らかにする。更に平成20年版学習指導要領を取 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 13 | 学習指導要領に見る教育課程の変遷⑧ | 平成29年版学習指導要領を取り上げ、資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 14 | 組織論による特色ある教育課程開発の理論と実際 | 地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性、学校の教育課題などを視点とした特色あるカリキュラムを実践している学校のカリキュラム・マ | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 15 | 教師の役割及び教育課程の評価的研究・総括 | カリキュラム・マネジメント及びカリキュラムの一部としての教師の役割について考察する。講義全体を振り返り、残された疑問点に関する質 | テキストを読む 講義の総括 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|-------|-------|---|----------|-------------------|
| 科目名 | 教育社会学 | | | 科目ナンバリング | T04L22087 |
| 担当者氏名 | 吉原 恵子 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・選 | 開講年次・開講期 2年・Ⅱ期 |

《授業の概要》

教育とは、人を望ましい方向へと変化させる営みである。一面では、教育は教育を行う者と教育を受ける者の間に起こる社会的相互作用である。他方、特定の社会のなかで、教育は一定の価値観に基づき法律や制度を介して行われる。すなわち、教育は社会的産物であり、社会現象としてさまざまな問題を生み出すものでもある。本講義では、教育を社会学的に捉える視点を養い、教育現場の諸課題について考察していく。

《テキスト》

『教育社会学（新しい教職教育講座 教職教育編③）』原清治・山内乾史 編著（ミネルヴァ書房）

《参考図書》

『教育の社会学 ～常識の問い方 直し方～ 新版』荻谷剛彦 他著（有斐閣）、『よくわかる教育社会学』酒井朗 他編著（ミネルヴァ書房）

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|-------------------------------|--|
| ◎ | 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 現代の教育問題に関心を持ち、現状のみならず、その背景や原因について情報・知識をもとに説明できる。 |
| ○ | 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力 | 教育問題について批判的に捉えるだけでなく、データ等を用いて多面的に分析し、解決に向けた考えをまとめて発表できる。 |
| | | |
| | | |
| | | |

《授業外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を示したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) レジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これらについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。
- (4) 日頃より、教育問題について関心を持って考える習慣をつけてください。

《学習状況・理解度の確認》

- ・課題やレポートは、全体的講評し、個別にコメントを付して返却する。
- ・学修の到達度について、学生が確認できるよう適時、得点率等を示す。

《備考》

とくにグループワーク、プレゼンテーションでは、主体的・協働的な取り組み態度が求められる。教職に就く者としての自覚をもって学ぶことを期待する。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 45 |
| 小テスト | 20 |
| レポート | 10 |
| 発表・実技 | 10 |
| 授業内課題 | 15 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------|--|----------------|-----------|
| 1 | 教育社会学の視点 | 教育社会学の視点について理解する。教育社会学の成立の背景、社会移動、学歴社会などを中心として教育や学校の社会的機能を説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 2 | 学歴社会と学力(1) | 学歴社会の基本構造、身分制社会から学歴社会への転換、日本社会のエリートなどについて説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 3 | 学歴社会と学力(2) | 学歴社会は業績社会なのかについて考察し考えをまとめることができる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 4 | 学校で起こる問題 | いじめや不登校など学校やその周辺で起こる問題について、現状と背景・原因について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 5 | 子どもをめぐる問題 | 子ども期や青年期の誕生について理解し、電子メディアと子どもの関わりや育児メディアなどについて問題点を説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 6 | 子どもの貧困と教育支援 | 日本における子どもの貧困の実態を理解し、子どもの貧困対策と教育支援、学校の役割について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 7 | 非行と逸脱 | 少年非行の現状を理解し、少年非行に対する社会学的アプローチ、社会の変化と教育問題の心理主義化・医療化について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 8 | 子どもの社会学（討議） | 学校や子どもをめぐる問題について社会学的に理解し、問題の分析を行うとともに、解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。 | テーマに関する資料収集とまと | 60 |
| 9 | 教師をめぐる問題 | 教師の役割について社会学的にアプローチするとともに、教職の多忙化・バーンアウト、変わる教員養成の現状について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 10 | 学校における他職種協働 | 生徒指導に関わる職種の多様化、多職種の配置による教員の役割の変化について理解し、学校における多職種協働について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 11 | 地域社会と教育 | 地域社会が果たす教育上の役割とその変容について、子どもと地域の大人のつながり、地域で支える学校づくりを中心として説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 12 | ジェンダーと教育 | 教育分野におけるジェンダー・ギャップについて理解し、隠れたカリキュラムやジェンダーの多様性を考える視点について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 13 | リスク社会における教育格差 | リスク社会と教育をめぐる格差問題について理解し、日本社会における教育費負担、子どもの貧困問題と学力保障について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |
| 14 | 教育と多様性（討議） | 変化する教育の現状について理解するとともに、多様性をめぐる諸課題について解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。 | テーマに関する資料収集とまと | 60 |
| 15 | 知識基盤社会と教育改革 | 知識基盤社会と生涯学習社会について理解し、キーコンピテンシーや社会関係資本と教育改革について説明できる。 | 該当章を読む／専門用語理解 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|-------|----------|------------|
| 科目名 | 教育制度論 | 科目ナンバリング | T04L11086 |
| 担当者氏名 | 古田 薫 | 担当形態 | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 必 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）
必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂
『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------|--|
| ◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力 | 教育行政の仕組みや学校制度、学校運営、地域連携について理解している。 |
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 教育法規の基本と、教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。 |
| ○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力 | 今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。 |
| | |
| | |

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所目を通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。
小テーマごとにミニテストを実施する。

《備考》

- ・必要に応じてグループ学習やディスカッションを実施する。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次回の授業時に質問すること。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------------|-----|
| 試験 | 60 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他（まとめノート提出） | 20 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|------------------------|---|-------------------|-----------|
| 1 | 教育行政と教育制度の基礎知識 | ・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 2 | 法体系と教育関係法規の概要 | ・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 3 | 憲法教育基本法制①教育に関する規定 | ・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 4 | 憲法教育基本法制②教育基本法 | ・教育基本法の意義と内容を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 5 | 学校教育の基本 | ・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 6 | 教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会 | ・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 7 | 教育行政のしくみ②教育委員会 | ・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 8 | 教育を受ける権利の保障 | ・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 9 | 学校の組織と運営①チーム学校 | ・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 10 | 学校の組織と運営②学校運営の管理 | ・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 11 | 学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規 | ・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 12 | 教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領 | ・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 13 | 学校運営と学校安全 | ・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 14 | 児童生徒に関する法規 | ・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。 | テキスト予習 まとめノートの | 45 |
| 15 | 児童生徒をめぐる様々な問題 | ・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。 | 学校における諸問題についてレ | 90 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|------|----------|------------|
| 科目名 | 教育相談 | 科目ナンバリング | T04L22099 |
| 担当者氏名 | 新井 肇 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

この授業では、教育相談の原理とともに、カウンセリング、心理検査、心理療法等の学校心理学に関する理論と実践について理解を深め、教育相談の基礎的知識や基本姿勢を習得する。そのうえで、現代の教育現場の実情と心の問題について具体的、実践的に対応できるよう「いじめ」「非行」「心の病気」「自殺予防」などの事例をもとに解説し、また、グループ討論を通じて自ら積極的に指導・援助できる資質を身に付ける。さらに、保護者への支援、他の専門機関との連携のあり方等について

《テキスト》

コンパス教育相談 住本克彦編著 建帛社 なお、講義時に適宜プリント資料を配付する□

□

《参考図書》

文部科学省（編）『生徒指導提要』（2022）
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdfよりダウンロード□

□

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--------------|---|
| | 学校における教育相談の必要性和意義について説明できる |
| | 教育相談を支える心理学的理論およびアセスメント、カウンセリング技法について説明できる |
| | 学校現場における様々な問題に対して、その問題の重要性を理解した上で、具体的な対応を考え出すことができる |
| | |
| | |

《授業外学習》

テキストを、授業前学習として自己の小・中・高校での体験と重ねながら読むとともに、授業後の振り返りとして、学習内容と関連付けながら読み込むことで、教育相談の理論や方法の基礎的な力量の定着を図る。また、教育に関する時事的な問題に関心を持ち、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等の情報を分析するとともに、文部科学省通知や国立教育政策研究所資料、各種審議会答申等の検討を通して、今日求められている教育相談の実践内容について主体的に考察する態度を養うことをめざす。なお、積極的に子どもと関わるボランティア体

《学習状況・理解度の確認》

授業内のロールプレイやグループワーク、事例検討等における発言・発表や、授業内小レポートの内容等から理解度を測る。加えて、そこからみえてきた課題について全体協議を行い、理解度の深まりを捉える

《備考》

講義だけでなく、課題に応じて、ロールプレイや事例研究、心理検査実習などの演習にも取り組むので、毎時間授業に出席し、積極的に学習に取り組んでほしい。また、自分の小・中・高等学校時代の経験を振り返り、授業に活かすこと、教師の立場から考えること、

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 70 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 30 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------------------|---|-------------------|-----------|
| 1 | 学校における教育相談の必要性和意義 | 学校における教育相談の必要性和意義について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める□ | テキスト1章を読む | 45 |
| 2 | 教育相談を支える心理学の理論 | 教育相談を支える心理学の理論について説明し、その理論的背景について理解を深める□ | テキスト2章を読む | 45 |
| 3 | 教育相談におけるアセスメント | 教育相談におけるアセスメントの重要性について説明し、教育現場におけるアセスメントの活用について理解を深める□ | テキスト4章を読む | 45 |
| 4 | 教育相談に活かすカウンセリングの基本技法(1) | カウンセリングの基本技法について説明し、その演習をとおして、カウンセリングにおける基本的姿勢に対する理解を深める□ | テキスト7章3節、10章3節を読む | 45 |
| 5 | 教育相談に活かすカウンセリングの基本技法(2) | SSTやストレスマネジメントなどの開発的カウンセリングの理論と技法についての理解を深める | テキスト6章を読む□ | 45 |
| 6 | 幼児期・児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談 | 幼児期・児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談について説明し、その発達段階に応じた対応について理解を深める□ | テキスト3章を読む | 45 |
| 7 | いじめ問題の理解と対応 | いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める□ | テキスト5章1節を読む | 45 |
| 8 | 不登校問題の理解と対応 | 不登校問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める | テキスト5章2節を読む | 45 |
| 9 | 虐待・非行問題の理解と対応 | いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める | テキスト5章4節、7章2節を読む | 45 |
| 10 | 特別な支援を必要とする子どもの理解と対応 | 虐待・非行問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める | テキスト9章を読む | 45 |
| 11 | 保護者支援のあり方 | 保護者支援のあり方について説明し、保護者への対応について理解を深める | テキスト7章を読む | 45 |
| 12 | チーム学校で行う教育相談のあり方 | チーム学校で行う教育相談のあり方について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める | テキスト8章を読む | 45 |
| 13 | 専門機関との連携 | 専門機関との連携について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める | テキスト10章、12章を読む | 45 |
| 14 | 教師のメンタルヘルス | 教師のメンタルヘルスについて説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める | テキスト11章を読む | 45 |
| 15 | 全体の総括 | 授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う | 自己の経験を事例としてまとめ | 60 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|------|----------|-----------|
| 科目名 | 教育哲学 | 科目ナンバリング | T04L22084 |
| 担当者氏名 | 森 秀樹 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

この授業では、現代の教育で生じている様々な現象について教育哲学の観点から考察を行う。その過程で、教育の基本的概念、教育の歴史や思想について理解し、子ども・教師・家庭・学校・社会といった教育に不可欠な事柄の間の相互関係について考えを深めていく。そして、それらの考え方に基づいて現代の教育の色々な課題について考察を行い、教育を実践していくための出発点を準備する。

《テキスト》

伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（教育情報出版）2019.

《参考図書》

伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（教育情報出版）2019.

《授業外学習》

【予習】 前回は指示された課題について自分なりの考え方をまとめておく。

【復習】 授業の内容について整理するとともに、授業を通して自分が考えたことをまとめて、小レポートとして提出する。

《学習状況・理解度の確認》

《授業外学習》で指示した【予習】と【復習】の内容をまとめた小レポートを次回の授業までに提出してもらおう。優れたものは次回にコメントをつけて紹介する。

《備考》

第2回から第14回に関する小レポートの得点の総和に基づいて成績評価を行う。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|--------------------|---|
| ◎ | 1-3子どもと環境の関係を理解する力 | 子どもの学びが環境との相互作用の中で行われるということをもとに具体的な事例とともに説明できる。 |
| ○ | 1-1子どもの発達を理解する力 | 子どもの発達や成長を見取る観点を学び、それを様々な場面に適用し、自分なりの言葉で説明できる。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 100 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|----------------|--|---------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 現代の教育について教育哲学の観点から考察するという講義の目的を理解し、全体の構成と毎回の受講の仕方について理解する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 45 |
| 2 | 教育とは何か？ | 教育が社会や時代の状況に応じて様々な現れ方をすることを学習し、それらに共通している本質的な内容について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 3 | 学校とは何か？ | 学校教育が社会や時代の状況を反映したものであることを理解するとともに、現代において学校教育が担う役割について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 4 | 学ぶとはどのような出来事か？ | 発達や学習の過程を具体的に記述していく中で、人間は環境との相互作用の中で発達/学習するという構造の重要性について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 5 | 子どもとはどのような存在か？ | 子ども像の歴史的な変遷をその都度の社会の教育観との関係の中で振り返り、現代における子ども像と教育観について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 6 | 学級とは何か？ | 現在の学校教育の核となっている「学級」について記述を行い。その果たすべき役割と問題点について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 7 | 学力とは何か？ | 日常的に用いられる「学力」を人間の発達や社会的活動の観点から記述しなおし、それに基づいて学力観の変遷の意味について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 8 | 教えることと学ぶこと | 教育思想の大きな流れを振り返りつつ、それを手がかりとして教えることと学ぶこととの関係について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 9 | 授業とは何か？ | 授業についての考え方の歴史を振り返ることで、授業の本質的な構成要素を理解し、現代において求められる授業のあり方について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 10 | 道徳をなぜ学ぶのか？ | 道徳とは何かについて考察することによって、その本質を理解するとともに、道徳教育のあり方について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 11 | グローバル化時代の教育 | グローバル化において発生している様々な問題について分析を行い、そのような社会における教育のあり方とその課題について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 12 | 異文化理解教育 | 国際化の進展の中で生じる文化間の軋轢の本質を記述することで、異文化を理解し、他者と共存するための教育について考察する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 13 | ケアの教育 | ケアについての思想を振り返ることで、子どもが不安なく成長できる環境を整えるためにケアという考え方が不可欠となることを学ぶ。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 14 | 哲学対話 | 「主体的で対話的な深い学び」を実践するための一つの方法として「哲学対話」がある。その基本的なあり方を体験する。 | 授業内容の整理と次回の予習 | 60 |
| 15 | リフレクション | 講義全体を振り返り、相互の関連を確認するとともに、各自の理解と考えを全体で共有する。 | 授業全体のふりかえり | 45 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|-------------|-------|---|----------|------------|
| 科目名 | 教育方法・技術論 | | | 科目ナンバリング | T04L21096 |
| 担当者氏名 | 河野 稔, 勝見 健史 | | | 担当形態 | 複担 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 |
| | | | | | 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

これからの社会を生きる子どもたちを育成するために、どのような授業をすれば上手く教えられるのか、どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのかを学習する。インストラクショナルデザインの考え方に基づいて、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面の指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶとともに、学習指導案を実際に作成し、受講生間で評価することで、授業設計の一連のプロセスを学ぶ。

《テキスト》

稲垣忠編著(2022)『教育の方法と技術 Ver. 2』北大路書房

《参考図書》

勝見健史(2023)『国語科 主体的学習における教師の「指導」』文溪堂、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』、文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』等

《授業外学習》

予習では、事前にテキストの授業範囲を読み、指定された事前課題に取り組むこと。復習では、指定された事後課題に取り組むとともに、授業で取り上げたテキストの各章末の章末問題に取り組むこと。第5回の授業企画書の作成、第15回までの授業パッケージの作成は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループ（制作チーム）のメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくに授業パッケージの作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|--------------------------------|---|
| ○ | 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。 |
| ◎ | 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 学習指導案の基本的な要素と作成のながれを理解し、実際に設計できる。 |
| ○ | 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習者を支援する基本的な指導技術を身につけ、活用することができる。 |
| ○ | 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | ICT機器・教材の活用法を理解し、授業設計の際に適切に位置づけることができる。 |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 50 |
| 発表・実技 | 20 |
| 授業内課題 | 30 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|----------------------------|---|-------------------|-----------|
| 1 | 教師という仕事における教育の「方法」と「技術」 | 本講義全体のガイダンス。教師という仕事における「方法」「技術」の意味と意義を理解する。 | 配布資料・参考図書で内容確認 | 45 |
| 2 | 教育方法の前提となる教師の「みる」力 (1) | 教師の「教える」専門性を支える、教師の子どもを「みる」力の前提性・重要性について理解する。 | 配布資料・参考図書で内容確認 | 45 |
| 3 | 教育方法の前提となる教師の「みる」力 (2) | 演習を通して、子どもを指導するにあたって具体的事実の意味を捉えることの意義について考察する。 | 配布資料・参考図書で内容確認 | 45 |
| 4 | 将来を生きる子どもたちに必要な「学力」とは | 今、育てるべき「学力」の内容と構造、そのために必要な教師の「指導」の内容について理解する。 | 配布資料・参考図書で内容確認 | 90 |
| 5 | 学力育成の教育方法としての「指導と評価の一体化」 | 具体的な「方法」「技術」の存在に着目し、学力育成と「指導と評価」の関係性について理解する。 | 配布資料・参考図書で内容確認 | 60 |
| 6 | 授業づくりとそのプロセス、学習評価のデザイン | 授業づくりのプロセス、学習目標と評価を理解する。授業パッケージのチームをつくり、テーマと学習目標・評価を考える。 | テキストの第3章と第4章を通読 | 90 |
| 7 | 学習環境のデザインとデジタル化、授業企画書の発表 | 学習環境を構成する要素や資源を理解する。授業パッケージで想定するテーマを実施する上で必要な環境を検討する。 | テキストの第5章を通読 | 90 |
| 8 | 授業を支える指導技術と学びを引き出す指導技術 | ICT活用を含め、教師として学習者中心の学びのための指導技術を理解する。授業パッケージでの学び方を紹介する。 | テキストの第6章と第7章を通読 | 90 |
| 9 | 学習指導案をつくる (1) 学習目標の設定 | 学習指導案の構成要素および学習目標の明確化について理解する。授業パッケージのテーマについて学習目標を定義する。 | テキストの第8章を通読 | 60 |
| 10 | 学習指導案をつくる (2) 深い学びを導く教材研究 | 教科書等の役割、教材研究としての課題分析を理解する。授業パッケージの学習目標について課題分析図を作成する。 | テキストの第9章を通読 | 90 |
| 11 | 学習指導案をつくる (3) 主体的・対話的な学習過程 | 協働学習や自己調整学習を理解し、探求型のアプローチを確認する。授業パッケージのテーマについて学習過程を作成する。 | テキストの第10章を通読 | 90 |
| 12 | 学習指導案をつくる (4) 学びが見える評価方法 | ルーブリック等の学習の質を見極めるための評価方法を理解する。授業パッケージのテーマについて評価計画を作成する。 | テキストの第11章を通読 | 60 |
| 13 | ICT・デジタル教材の活用、情報活用能力の育成 | ICTの活用や情報活用能力を育成する学習場面を確認する。授業パッケージでのICT活用と意識する情報活用能力を検討する。 | テキストの第12章と第13章を通読 | 90 |
| 14 | これからの学習環境とテクノロジーの役割 | テクノロジーによる新しい学びの姿を整理する。ICT環境における学校と教師の役割を検討する。授業パッケージをまとめる。 | テキストの第14章を通読 | 90 |
| 15 | 模擬授業の実施と授業の改善、授業のまとめ | 授業内容をふりかえるとともに、授業パッケージを仕上げて模擬授業を実践する。 | テキストの第15章を通読 | 90 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|-------------|----------|-----------|
| 科目名 | 教職入門 | 科目ナンバリング | T04L11085 |
| 担当者氏名 | 古田 薫, 別惣 淳二 | 担当形態 | 共担 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 必 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業外学習》

配布された資料を読んでレポートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------|---|
| ◎ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力 | 教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。 |
| ◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力 | 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。 |
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 教員に関わる制度について理解している。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 教員に求められる資質能力と研修について理解している。 |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 60 |
| 小テスト | 10 |
| レポート | 20 |
| 発表・実技 | 5 |
| 授業内課題 | 5 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|----------------------------|---|---------------|-----------|
| 1 | 教職とは | ・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。 | 教員採用試験について | 60 |
| 2 | さまざまな教職観とその歴史の変遷 | ・教職観の歴史の変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。 | 良い教員とは | 60 |
| 3 | 教員に求められる資質・能力 | ・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。 | プリントを読んで感想を書く | 60 |
| 4 | 教員養成と教員免許制度 | ・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。 | 採用試験合格に向けた計画 | 45 |
| 5 | 教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校 | ・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。 | 校務分掌について調べる | 45 |
| 6 | 教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他 | ・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。 | 教員の一日をレポートする | 45 |
| 7 | 教員の職務③:保護者・地域との連携協力 | ・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいかを考察する。 | 事例を調べる | 45 |
| 8 | 教員の職務④:アカウントビリティと学校運営 | ・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。 | 学校評価の結果を分析する | 45 |
| 9 | 教員の人事管理①:服務 | ・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。 | プリントを読んで感想を書く | 60 |
| 10 | 教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒 | ・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。 | プリントを読んで感想を書く | 60 |
| 11 | 教員の人事管理③:教員評価 | ・教員評価の意義と課題について理解する。 | プリントを読んで感想を書く | 60 |
| 12 | 教員の資質向上と研修 | ・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。 | 教員としてのキャリア計画 | 45 |
| 13 | 教員の労働環境 | ・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。 | プリントを読んで感想を書く | 60 |
| 14 | 教師という仕事—やりがいと悩み— | ・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。 | 事例を調べる | 45 |
| 15 | 目指す教員像と課題 | ・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。 ・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を | どのような教員をめざすか | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------|-------|---|----------|-------------------|
| 科目名 | 個別教育計画概論 | | | 科目ナンバリング | T03L22065 |
| 担当者氏名 | 松田 信樹 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 2年・I期 |

《授業の概要》

令和の日本型学校教育の在り方として提唱された「個別最適化された学び」について、その理念と実践について考えるとともに、「個別最適化された学び」の実現に必要な「指導の個別化」と「学びの個性化」を実践レベルに落とし込む手立てとしての個別教育計画（IEP）の作成について考察する。

《授業外学習》

授業時間中に指示された課題に取り組むために、資料の収集やレポートの作成に取り組むことが求められる。

《テキスト》

奈須正裕・伏木久治（編著） 2023 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して 北大路書房

《学習状況・理解度の確認》

提出を課せられた授業内課題等を通して、理解度を把握する。質問等にはオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

市川奈緒子・仲本美央 2022 保育ナビブック 子ども一人ひとりがかがやく個別指導計画～保育現場の実践事例から読み解く～ フレーベル館
加藤美由 2022 個別最適な学び 協働的な学びの考えと実践

《備考》

Introduction to Individualized Education Plan ディスカッションやグループワークを交えて授業を行う。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|----------------------------------|
| ◎ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する | 個別最適化された学びについて理解を深める |
| ○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力 | 個別教育計画について理解を深める |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力 | 学習者の個性を的確に捉えて、個別教育計画に反映させることができる |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|-----------------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 30 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 50 |
| その他（授業への積極的参加度） | 20 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-------------------------|--|---------------|-----------|
| 1 | 導入 | 学校教育をめぐる諸問題について考察する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 2 | 小学校学習指導要領 | 個を重視した教育について、小学校学習指導要領に基づいて考察する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 3 | 幼稚園教育要領 | 個を重視した教育について、幼稚園教育要領に基づいて考察する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 4 | 令和の日本型学校教育 | 「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 5 | 令和の日本型学校教育 | 「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 6 | 令和の日本型学校教育 | 「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 7 | 指導の個別化 | 「適性処遇交互作用」や「プログラム学習」など、指導の個別化に関わる教育について振り返る。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 8 | 個別最適化された学びの実践 | 自由進度学習の取り組みについて探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 9 | 個別最適化された学びの実践 | 奈良の学習法の実践について探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 10 | 個別最適化された学びの実践 | 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する教育について探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 11 | 保育における個別保育計画 | 3歳未満の子どもを対象とした個別の指導計画の作成について探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 12 | 保育における個別保育計画 | 3歳未満の子どもを対象とした個別の指導計画の作成について探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 13 | 特別支援教育における個別教育計画 | 特別支援教育における個別教育支援計画と個別指導計画について探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 14 | 特別支援教育における個別教育計画 | 特別支援教育における個別教育支援計画と個別指導計画について探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |
| 15 | 個別教育計画（IEP）に関わる海外での取り組み | 個別教育計画（IEP）に関するアメリカ合衆国とフィンランドでの取り組みについて探究する。 | 資料収集とレポート作成 授 | 120 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等英語科教育法 | 科目ナンバリング | T02L22064 |
| 担当者氏名 | 大牛 英則 | 担当形態 | オムニバス |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

小学校における外国語教育に係る背景知識・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、児童期の第二言語習得の特徴、多様な指導環境について理解し、授業実践に必要な基本的な指導技術や実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることを目指す。

《授業外学習》

授業外の学習として、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』を熟読し、次の内容について整理しておく必要がある。

- ・小学校外国語活動および外国語科の目標
- ・各学年において求められている学習内容と学習方法

《テキスト》

小川隆夫、東仁美『小学校英語 はじめる教科書』mpi松香フォニックス、2022

《学習状況・理解度の確認》

各回で学習した内容を理解・習得しているかの確認を次のように行う。

小テスト、レポート：学習内容について数回に分けて実施し、授業中にフィードバック

《備考》

- ・グループワーク／ペアワークを行うことを前提とする。
- ・主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待する。

《参考図書》

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』

文部科学省『Let's Try!1』『Let's Try!2』東京書籍、2019

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--------------|--|
| | 小学校における外国語活動（中学年）・外国語科（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な知識を理解し、 小学校における外国語活動（中学年）・外国語科（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な指導技術を身に付ける。 |
| | |
| | |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 20 |
| 小テスト | 20 |
| レポート | 20 |
| 発表・実技 | 20 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他（ ） | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---|--|---------------------|-----------|
| 1 | 小学校教育の理念、学習指導要領に見る外国語活動・外国語科 | 授業計画、成績評価の方法と評価の割合 小学校学習指導要領に記載されている小学校教育の理念や外国語活動・ | 小学校学習指導要領の通読 | 60 |
| 2 | 中高学年の接続、小中の連携と小学校の役割 | 外国語活動と外国語科の接続の在り方および小学校・中学校の連携における小学校外国語教育の役割 | テキストp.138-41 | 60 |
| 3 | 発達心理学の基礎、児童や学校の多様性への対応 | 児童の心理学的発達を踏まえた指導の在り方や様々な特性を持つ児童への対応の仕方 | テキストp.142-5、p.150-3 | 60 |
| 4 | 外国語活動・外国語科の目標、言語使用を通じた言語習得・音声によるインプット | 学習指導要領に示された目標および言語習得を目的とする活動の在り方 | テキストp.146-9 | 60 |
| 5 | 場面、状況等を明確にした言語活動 | 言語活動を設定する際に必要となる考え方 | テキストp.26-9、配付資料 | 60 |
| 6 | 言語活動のつなぎ・文字言語との出会い、音声から文字へ | 領域「聞くこと」「話すこと」から領域「読むこと」「書くこと」への移行 | テキストp.158-61 | 60 |
| 7 | 読む活動から書く活動への導き方 | 読む活動から書く活動への導き方 | テキストp.42-5 | 60 |
| 8 | Classroom English, Small Talk, Teacher Talk | 授業中における教師の発話の種類とその特徴、および児童の発話を誘う方法 | テキストp.38-41、配付資料 | 60 |
| 9 | 題材の選定と中学年・高学年に適した教材 | 各学年における目標を踏まえた教材選定の視点と教材例 | テキストp.46-9、p.170-3 | 60 |
| 10 | 学習到達目標、指導計画 | 年間指導計画に基づいた単元における到達目標設定の仕方およびその指導計画作成の在り方 | テキストp.50-3、配付資料 | 60 |
| 11 | 学習指導案の作り方 | 単元指導計画および学習指導案作成の方法 | テキストp.54-57 | 60 |
| 12 | ALT等とのティーム・ティーチングによる指導 | ティーム・ティーチングを実施するためのALT等との打合せ、授業中におけるそれぞれの役割 | テキストp.58-61、p.154-7 | 60 |
| 13 | 読み聞かせ・発表活動の指導 | 絵本の読み聞かせ、領域「話すこと（発表）」における発表活動の指導の方法 | テキストp.186-93 | 60 |
| 14 | ICT等の活用の仕方 | 各領域の目標を達成するために効果的なICT機器活用の在り方と活用方法 | テキストp.62-65 | 60 |
| 15 | 学習状況の評価（パフォーマンス評価） | パフォーマンステスト実施に向けた課題設定の仕方およびルーブリックによる評価の在り方 | テキストp.66-69、p.162-5 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | |
|-------|----------|-------|----------|------------|
| 科目名 | 初等英語科内容論 | | 科目ナンバリング | T02L21054 |
| 担当者氏名 | 大牛 英則 | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 | ・ 選 |
| | | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

小学校における外国語活動や外国語科（英語）の授業の実践に必要な英語の基礎知識を学ぶだけでなく、授業で実際に用いる英語を使いながら身につけていく。授業では、それまでに自分が受けた英語の授業との比較をしながら、実際の授業を想定した発表も行っていく。

《授業外学習》

各回の資料に目を通し、必要に応じて語彙、表現を練習しておくこと。

《テキスト》

『小学校英語 はじめる教科書 改訂版』 MPI 2022年
『最新小学校英語内容論入門』樋口・泉・加賀田 編 研究社

《学習状況・理解度の確認》

数回毎に小テスト・パフォーマンステストを実施する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《備考》

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--------------|---|
| | 授業実践に必要な「英語を聞きとる力」「英語を話す力」「英語を読む力」「英語を書く力」を身につけている。 |
| | 英語授業実践に必要な「英語に関する基本的な知識」について理解している。 |
| | 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 |
| | 授業実践に必要な児童文学や異文化理解に関する事柄を理解している。 |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 50 |
| 小テスト | 30 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 20 |
| 授業内課題 | 0 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------------------|--|-----------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 小学校外国語活動・外国語科の役割とフォニックスの基礎 | | |
| 2 | 聞くこと、話すことの指導 フォニックス① | 授業で使うクラスルームイングリッシュを学び、実際の授業でどのようなタイミングや場面で用いるべきかについて考えたり、どのような内容 | | |
| 3 | 外国語学習と第二言語習得理論 フォニックス② | 第二言語学習環境と外国語学習環境の違いについて気づき、Krashenが唱えた「モニターモデル」をはじめとする第二言語習得理論と小学校外国 | | |
| 4 | 英語に関する基本的な知識 ①フォニックス③ | 英語の音声や文字、単語、文の書き方について、日本語と関連させながらそれらの基礎知識となるものを学び、指導についても考える。 | | |
| 5 | 読むこと、書くことの指導 フォニックス④ | 小学校外国語活動・外国語科における「読むこと」と「書くこと」の考え方を学び、実際に使われている教科書を題材にして、授業を通して | | |
| 6 | 英語に関する基本的な知識 ②フォニックス⑤ | 英語の語彙や語彙指導とそれに関わる課題から英語の文構造や文法指導など日本語の文法と関連させながら、実際の指導についても学ぶ。 | | |
| 7 | ライム・歌・絵本・児童文学 フォニックス⑥ | 小学校の授業で頻繁に用いられるチャンツや歌、絵本などの文学を紹介し、実際の授業でどのように取り入れることができるかについて考え | | |
| 8 | 外国語における国際理解教育 フォニックス⑦ | 外国語活動や外国語科の授業において重要となる国際理解（異文化理解）という視点について考え、授業においてどのように取り入れること | | |
| 9 | 予備日 | | | |
| 10 | 予備日 | | | |
| 11 | 予備日 | | | |
| 12 | 予備日 | | | |
| 13 | 予備日 | | | |
| 14 | 予備日 | | | |
| 15 | 予備日 | | | |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|------------|
| 科目名 | 初等音楽科教育法 | 科目ナンバリング | T02L22060 |
| 担当者氏名 | 井上 朋子 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

本授業は、小学校音楽科における目標と指導内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識と指導技術、また授業づくりの方法を身に付けることを目的とします。具体的に、まずは小学校音楽科学習指導要領に示されている各学年の目標及び指導内容、また児童期における音楽学習の実際と学習評価の在り方について学びます。最終的には、模擬授業の実施と振り返りを通して、自ら授業改善に取り組める実践的指導力を身につけます。

《テキスト》

初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社, 2020
『音楽のおくりもの1～6』教育出版
※初等音楽科内容論と同じ教科書です

《参考図書》

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説
音楽編』 東洋館出版社

《授業外学習》

授業中に指示された課題や実技の練習に取り組んだうえで授業に臨みましょう。
日頃から身の回りの多様な音や音楽に関心をもつとともに、疑問に思ったことは調べる習慣をつけておきましょう。

《学習状況・理解度の確認》

学習状況や理解度は、毎回の提出課題により確認します。また、提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックします。

《備考》

- ・ 授業担当者：小学校音楽専科の実務経験者
- ・ ICT活用双方向型授業
- ・ Primary Education Music Teaching Methodology

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 小学校学習指導要領等音楽科の目標や内容、指導内容を理解している |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 教材研究を行い、学習指導案を作成することができる |
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を履修する力 | 模擬授業を通して、授業改善の視点を身につけている |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 40 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 20 |
| 授業内課題 | 40 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-------------|---------------------------|-------------------|-----------|
| 1 | ガイダンス | オリエンテーション、音楽教育の意義について | 授業内課題に取り組む | 45 |
| 2 | 音楽科の指導内容 | 小学校音楽科における各学年の目標や共通事項について | 教科書pp. 12-26を読む | 45 |
| 3 | 表現領域：歌唱 | 歌唱教材研究と指導法 | 教科書pp. 52-60を読む | 45 |
| 4 | 表現領域：器楽 | 器楽教材研究と指導法 | 教科書pp. 61-82を読む | 45 |
| 5 | 表現領域：音楽づくり | 音楽づくりの教材研究と指導法 | 教科書pp. 83-92を読む | 45 |
| 6 | 鑑賞領域 | 鑑賞教材研究と指導法—情報機器の活用 | 教科書pp. 93-107を読む | 45 |
| 7 | 音楽科の学修指導計画 | 指導計画の作成と学習指導案の立案 | 教科書pp. 27-35を読む | 120 |
| 8 | 音楽学習における評価 | 評価の観点と評価方法 | 教科書pp. 36-42を読む | 45 |
| 9 | 他教科や校種間との連携 | 音楽科と他教科等との関連、校種間の連携 | 教科書pp. 118-127を読む | 45 |
| 10 | 模擬授業① | 模擬授業の実施と振り返り①（低学年・表現） | 模擬授業の準備 | 60 |
| 11 | 模擬授業② | 模擬授業の実施と振り返り②（中学年・表現） | 模擬授業の準備 | 60 |
| 12 | 模擬授業③ | 模擬授業の実施と振り返り③（低中学年・鑑賞） | 模擬授業の準備 | 60 |
| 13 | 模擬授業④ | 模擬授業の実施と振り返り④（高学年・表現） | 模擬授業の準備 | 60 |
| 14 | 模擬授業⑤ | 模擬授業の実施と振り返り⑤（高学年・鑑賞） | 模擬授業の準備 | 60 |
| 15 | 学習のまとめ | 総括とフィードバック | 授業の総復習 | 120 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等音楽科内容論 | 科目ナンバリング | T02L21050 |
| 担当者氏名 | 井上 朋子 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

本授業は、小学校音楽科の授業内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識や技能を修得することを目的とします。音楽科授業において、児童に音楽活動の楽しさを伝えるには、教師自身の多様な豊かな音楽体験が大切です。この授業では、教科書教材を用い、実際の授業場面を意識しながら体験的に学びます。その中で、表現活動（歌唱、器楽、音楽づくり）、鑑賞活動を指導する際に必要となる音楽的な知識と技能を身につけます。

《テキスト》

初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社, 2020『音楽のおくりもの1～6』教育出版

《参考図書》

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』東洋館出版社

《授業外学習》

歌唱、器楽の上達には、継続的な練習が必要不可欠です。課題曲については、各自よく練習した上で授業に臨みましょう。日頃から、身の回りの多様な音や音楽に耳を傾け、味わって聴くようにしましょう。

《学習状況・理解度の確認》

実技に関しては、実技発表において、修得状況を確認します。知識に関しては、授業内の課題や試験等によって、理解度を確認します。

《備考》

- ・ 授業担当者は、小学校音楽専科の実務経験者
- ・ ICT活用双方向型授業
- ・ Primary Education Music Content Teaching

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 小学校音楽科の授業内容を理解している |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わるための姿勢や態度を身につけている |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力 | 小学校音楽科の授業実践に必要な基礎的知識や技能を身につけている |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 40 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 40 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------|-------------------------------|----------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 小学校音楽科の目標と内容 | これまでの音楽経験についての | 60 |
| 2 | 表現領域：歌唱① | 低中学年の教科書教材を使って | 課題曲（歌）の練習 | 60 |
| 3 | 表現領域：歌唱② | 高学年の教科書教材を使って | 課題曲（歌）の練習 | 60 |
| 4 | 表現領域：器楽① | 低中学年の教科書教材を使って（鍵盤ハーモニカ・リコーダー） | リコーダーの練習 | 60 |
| 5 | 表現領域：器楽② | 高学年の教科書教材を使って（器楽合奏） | リコーダーの練習 | 60 |
| 6 | 表現領域：音楽づくり① | 音あそび・即興的な表現 | 即興的な音楽づくり | 60 |
| 7 | 表現領域：音楽づくり② | 音楽の仕組み、音の重ね方や組み合わせを活かして | 音楽創作 | 60 |
| 8 | 鑑賞領域及び全体のまとめ | 低中高学年の教科書教材を使って 全体のまとめ | 総復習 | 90 |
| 9 | | | | 90 |
| 10 | | | | 90 |
| 11 | | | | 90 |
| 12 | | | | 90 |
| 13 | | | | 90 |
| 14 | | | | 90 |
| 15 | | | | 90 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------|-------|---|----------|------------------------|
| 科目名 | 初等家庭科教育法 | | | 科目ナンバリング | T02L22062 |
| 担当者氏名 | 相川 美和子 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 2 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

小学校学習指導要領（家庭編）の内容を踏まえて、単元ごとの学習目標を明確にした指導案作成を行うことによって、指導の方法・形態は多様にあることを理解する。更に模擬授業を通して実践力を高めると同時に、指導と評価の一体化について考察しながら授業技術の向上を目指すことを目標とする。

《授業外学習》

・授業で使用する 学習指導要領解説と教科書を全体的に通読しておくこと。 ・家庭科の内容は、社会の変化に対応して新しい課題に取り組む必要があるため、ノートや資料を工夫して整理しておくこと。 ・自分の生活環境を見つめなおし、授業設計につながる課題を発見する探求心を養うこと。 ・次時の授業に関連した事前学習の指示に従って、予習または復習を行うこと。

《テキスト》

・文部科学省 小学校学習指導要領解説（家庭編） ・教科書
小学校わたしたちの家庭科（5・6）開隆堂

《学習状況・理解度の確認》

・授業内容の定着を図るため、ポートフォリオを作成する。 ・個人で作成した指導案と評価表をグループワークによって相互評価を行う。 ・模擬授業に対して講評を行う。

《参考図書》

随時関連資料を配布

《備考》

・グループワーク、ディスカッションにおいては、積極的に情報交換することを期待する。
・初等家庭科内容論で作成したノートと新しいルーズリーフノートも活用すること。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--------------|---|
| | 小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標及び主な内容を理解し、重点を説明することができる。 |
| ○ | 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 小学校家庭科指導に必要な基本的知識及び技術を身に着けるとともに、教材研究をすることができる。 |
| ○ | 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 小学生を取り巻く生活実態を視野に入れた指導案作成を行い、模擬授業を行うことができる。 |
| ◎ | 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力 新しい生活課題を見出し、児童の主体的な学びを深める授業設計の向上に取り組むことができる。 |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|------------------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 30 |
| 授業内課題 | 40 |
| その他（ノート・ポートフォリオ） | 30 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------------|---|----------------|-----------|
| 1 | 小学校家庭科教育の理念と意義 | 小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標及び内容・構成について理解し、今後の学習方法について確認する。 | 学習指導要領総説・目標の通読 | 45 |
| 2 | A 家族・家庭生活 | 「わたしの生活時間」を中心に、授業設計の要点を整理し、授業内課題に取り組む。 | ポートフォリオ記入 | 45 |
| 3 | B 衣食住の生活 食生活（1） | 「食生活」の内容に関する指導の留意点について、「食育」「食事の役割」を背景とした広い視野から理解する。 | 教科書の関連部分を通読 | 45 |
| 4 | B 衣食住の生活 食生活（2） | 「調理の基礎」「栄養を考えた食事」に関する実技に取り組む。 | ポートフォリオ記入 | 45 |
| 5 | B 衣食住の生活 衣生活（1） | 「衣生活」の内容に関する指導の留意点について「衣服の快適な着用」を題材に要点を理解する。 | 教科書の関連部分を通読 | 45 |
| 6 | B 衣食住の生活 衣生活（2） | 「生活を豊かにするために布を用いた物の製作」を題材に、実習を伴う授業設計の要点について理解し、実技に取り組む。 | ポートフォリオ記入 | 45 |
| 7 | B 衣食住の生活 住生活（1） | 「住生活」の内容に関する指導の留意点について理解し、災害教育と関連付けて教材研究することの重要性を理解する。 | ポートフォリオ記入 | 45 |
| 8 | C 消費生活・環境 | 環境に配慮した消費生活と持続可能な社会の関連を確認し、指導の留意点について理解すると共に、課題に取り組む。 | 関連事項の調べ学習 | 75 |
| 9 | 授業設計と学習指導案 | ICTを効率的に取り入れた授業設計と学習指導案の構成要素について理解する。 | ポートフォリオ記入 | 45 |
| 10 | 模擬授業指導案作成（1） | 具体的な授業を想定した授業設計をし、学習指導案を作成する。 | これまでの授業内容の整理 | 90 |
| 11 | 模擬授業指導案作成（2） | 子どもの実態を踏まえ、指導者独自の視点で授業設計がされているかグループで相互評価しながら、指導案を完成させる。 | ポートフォリオ記入 | 60 |
| 12 | 模擬授業実施（1） | 模擬授業を行い、自己評価と相互評価を行う。 | 指導案の修正 | 60 |
| 13 | 模擬授業実施（2） | 模擬授業を行い、自己評価と相互評価を行う。 | 評価をポートフォリオにまと | 60 |
| 14 | 模擬授業事後指導 | 模擬授業についての自己評価と相互評価を基に、授業改善に向けたグループ討議を行う。 | ポートフォリオの提出準備 | 60 |
| 15 | 総括 授業力向上に向けて | 指導と評価の一体化について確認し、授業力向上に向け総括とする。 | 授業設計について整理する。 | 45 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等家庭科内容論 | 科目ナンバリング | T02L21052 |
| 担当者氏名 | 相川 美和子 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

家庭科教育は教科横断的に取り扱われる要素が多く、他教科とのつながりを確認しながら、その目的や内容について講義を行うと同時に、指導に必要な基礎的知識と技術について理解を図る。また、家庭科の内容は、教科から離れて、小学生生活全般に関わる指導の要領（給食・清掃・学級活動・特別活動・保護者会等）と重複しており、小学校教員としての資質向上にもつながることを確認する。

《テキスト》

- ・文部科学省 小学校学習指導要領解説（家庭編）
- ・教科書 小学校わたしたちの家庭科（5・6）開隆堂

《参考図書》

随時関連資料を配布

《授業外学習》

- ・学習指導要領解説（家庭編）と教科書の、関連箇所を読んでおくこと。
- ・自分の生活を見渡し、家庭科授業に関連する内容を探求する姿勢を身に着けるようにすること。
- ・次時の授業に向けた範囲プリントを配布するので、授業内容を理解し、工夫してノートを整理すること。

《学習状況・理解度の確認》

- ・工夫されたノートと授業内課題に取り組み、提出時に解説を添える。

《備考》

- ・幅広い分野を短時間で履修することになるため、各自主体的に学習を進めることを期待する。
- ・A4版ルーズリーフノートを多目に持参すること。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標と構成・内容を理解している。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 教科書の項目ごとの内容の要点を理解し、基礎的な知識と技術を身に着け更に発展的な学びをしようとしている。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を履修する力 | 内容間の関連と他教科との関連を理解し、新しい課題設定と解決に向けて教材研究することができる。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|----------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 30 |
| 授業内課題 | 40 |
| その他（ノート） | 30 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------------|---|--------------------|-----------|
| 1 | 小学校家庭科教育の構成と内容 | 小学校家庭科の内容と中・高で扱われる内容の系統性について理解し、今後の学習方法について確認する。 | 学習指導要領（家庭科）目標 | 45 |
| 2 | A 家族・家庭生活 | 自分の成長と家族、家庭生活の内容を中心に、少子高齢社会に対応した諸問題と、異年齢交流の要点を理解する。 | 教科書の関連部分通読と予習 | 45 |
| 3 | B 衣食住の生活（食生活） | 日常の食事の大切さについて確認し、栄養・調理に関する基礎的な知識と技術について理解する。 | 教科書の関連部分通読と予習 | 45 |
| 4 | B 衣食住の生活（衣生活） | 衣服の働きについて理解すると同時に、基礎的な技能を確認するため、授業内課題に取り組む。 | 予習ノート作成 指示された課題 | 60 |
| 5 | B 衣食住の生活（住生活） | 快適に安全に住まうの内容を中心に、災害教育と関連付けた内容の取扱いについて確認する。 | 教科書の関連部分通読と予習 | 45 |
| 6 | C 消費生活・環境（消費生活と環境） | 身近な物の選び方、キャッシュレス時代に対応したお金の使い方について、新しい教材開発の重要性を理解する。 | 教科書の関連部分通読と予習 | 45 |
| 7 | C 消費生活・環境（環境） | 環境に配慮した生活とは、上記A～Cすべてに関連しており、多角的な視点で扱わなければならない内容であることを理解し、授業内課題に取り | 授業の復讐と ノート整理 | 90 |
| 8 | 他教科との関連と総括 | 家庭科の内容が、教科横断的に取り扱われることの重要性を理解し、授業の総括をする。 | 課題の整理 | 45 |
| 9 | 予備日 | | | |
| 10 | 予備日 | | | |
| 11 | 予備日 | | | |
| 12 | 予備日 | | | |
| 13 | 予備日 | | | |
| 14 | 予備日 | | | |
| 15 | 予備日 | | | |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|------------|
| 科目名 | 初等国語科教育法 | 科目ナンバリング | T02L22055 |
| 担当者氏名 | 大江 実代子 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想についての具体的に指導方法に触れる。まず、学習指導案、発問構成、板書計画等、基本的な要件を理解する。また、これからの授業展開に欠かせないタブレット端末等ICTの効果的な活用や対話的な学習を成立させるポイント等、演習的な形態を取り入れ、理解と実践力を養う。

《テキスト》

学習指導要領解説 国語編(平成29年) 文部科学省
授業毎に必要なハンドアウトを配布する。

《参考図書》

『国語教師の力量を高める-発問・評価・文章分析の基礎-』
井上尚美著 明治図書(2005)を推奨
小学校国語教科書(1～6年) 光村図書・東京書籍

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|----------------------------------|--|
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想について理解し、模擬授業等を通して実践することが |
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 学習指導案について理解し、選択した教材を用いて学習指導案を作成することができる。□ |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 国語科における思考力・判断力・表現力の育成について具体的な指導方法を理解する。□ |
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 対話の目的と形態を知り、授業計画時に適切な形態を選択できるようにする。□ |
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想について理解し、模擬授業を行い、自己評価、考察が |

《授業外学習》

シラバスをもとに、以下の観点で予習復習を行う。
①学習指導要領解説にある言語活動例の確認
②Web等で国語科の学習指導案を入手し、実際の指導案を読み、知識を得ると共に疑問点を授業の中で解決できるようにする。
③教科書教材を読む。
④学習指導計画を立てたり、1時間の略案を考えたりする。

《学習状況・理解度の確認》

・レポートにコメントを付して返却する。
・分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・小学校現場でも頻繁に取り入れられているディスカッション・グループワーク、ディベート、プレゼンテーションなどを演習として取り入れます。実際に経験することで子どもた

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 40 |
| 発表・実技 | 40 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他(0) | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------------|--|----------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れについて・国語科の授業づくりの全体を理解する。□ | 国語の授業について振り返り心 | 45 |
| 2 | 授業づくりの基本1 単元構成 | 学習指導要領の指導目標や指導事項を確認し、国語科単元学習の構成のポイント(ICT機器の活用を含む)について理解する。 | 国語科単元の構成についてポイ | 120 |
| 3 | 授業づくりの基本2 教材研究 | 教材研究の方法を知り、実際に教材分析を進めながら理解を深める。 | 教材研究についてポイントをま | 120 |
| 4 | 授業づくりの基本3 思考力育成 | 国語科で育成する思考力やその指導方法を理解する。 | 思考力の育成についてポイント | 120 |
| 5 | 授業づくりの基本4 発問と評価 | 授業の流れ、発問と評価、板書計画について理解する。 | 板書や発問についてポイントを | 120 |
| 6 | 授業づくりの基本5 対話活動 | 一斉学習での話し合いやグループワークの方法、話すこと・聞くことの基本となるスピーチ指導など演習を交えて理解を深める。 | 対話活動についてポイントをま | 120 |
| 7 | 授業づくりの基本6 読むこと① | 文学的文章の指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。 | 国語科教科書教材の説明的文章 | 120 |
| 8 | 授業づくりの基本7 読むこと② | 説明的文章の指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。 | 国語科教科書教材の説明的文章 | 120 |
| 9 | 授業づくりの基本8 話すこと聞くこと | 話すこと聞くことの指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。 | 話すこと聞くことの指導ポイン | 120 |
| 10 | 授業づくりの基本9 書くこと① | 書くことの指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。1 | 書くことの指導ポイントをまと | 120 |
| 11 | 授業づくりの基本10 書くこと② | 書くことの指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。 | 書くことの指導ポイントをまと | 120 |
| 12 | 学習指導案作成 | 教材を選択し、実際に学習指導案を作成する。 | 教材を選び教材研究をする指導 | 120 |
| 13 | 学習指導案検討 | グループワークで学習指導案の検討を行う。 | 板書や発問を含め、本時指導案 | 120 |
| 14 | 模擬授業と授業検討 ① | 模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。 | 模擬授業に参加し、感じたこと | 120 |
| 15 | 模擬授業と授業検討 ② | 模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。 | 国語科の授業づくりについて整 | 120 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等国語科内容論 | 科目ナンバリング | T02L21045 |
| 担当者氏名 | 大江 実代子 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

小学校指導要領「国語科」に示されている目標や内容を踏まえ、具体的な言語活動の映像を視聴したり、体験したりしながら「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」について理解し、小学校における国語科の授業を行う教員として必要となる基礎的な知識と技能を習得する。

《テキスト》

文部科学省「学習指導要領解説 国語編」東洋館出版(2018・2)必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業外学習》

- (予習)
- ・次回授業予定内容の範囲にあたる学習指導要領の解説を読む。
- (復習)
- ・授業で取り上げたポイントをまとめながら理解を深める。
- (日常的)
- ・新聞、ニュース番組等の言語に関心を持ち、疑問に思う言語について調べる習慣をつけるとともに読書の習慣をつける。

《学習状況・理解度の確認》

- ・文章を読む、書く習慣をつけるために、予習・復習を必ず行い、意見や疑問点等、授業における発言を確認する。
- ・復習として出している課題を領域ごとにレポートとして評価する。

《備考》

- ・グループワーク、ディスカッションを取り入れる。
- Elementary school Japanese content theory

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|----------------------------------|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習指導要領について全体の構成や国語科の目標を理解し、授業イメージをもつことができる。 |
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 言葉の働きに関する指導について理解することができる。 |
| ○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力 | 具体的な言語活動を通して思考力・判断力・表現力の指導内容や指導方法を理解することができる。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 小学校で扱う古文や漢文や、敬語、共通語方言、漢字の由来など言語に関する知識技能の内容を理解する。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 小学校で扱う古文や漢文や、敬語、共通語方言、漢字の由来など言語に関する知識技能の内容の体系的な指導について |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 50 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 50 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-----------|--|------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れについて・国語科の授業づくりのポイントを知る。 学習指導要領 構成・内容の概要を知る。 | 予) 自身が受けてきた国語の授 | 60 |
| 2 | 言語の働き1 | 語や文の特徴、文の構成等に関わる言葉の働きについての指導内容を理解する。 | 復) 自身の体験を交え言語活動 | 90 |
| 3 | 言語の働き2 | 敬体と常体の文や敬語及び情報を獲得し発信するための表現技法の特徴について理解する。 | 復) 自身の体験を交え敬語につ | 90 |
| 4 | 言語文化 | 古文や漢文、文語調の文章教材等、伝統的な言語文化の特徴や指導内容及び仮名・漢字の成り立ちや特徴について理解する。 | 復) 関心のある古典文学につい | 90 |
| 5 | 話すこと・聞くこと | 話すこと・聞くこと教材の指導内容や方法を理解する。 | 復) スピーチのポイント/対話指 | 90 |
| 6 | 読むこと | 説明的文章・文学的文章の教材の特徴や指導内容及び読書指導について理解する。 | 復) 読むことの指導についてまと | 90 |
| 7 | 書くこと | 書くことの教材の指導内容について理解する。 | 復) 模範文例を作成する。 | 90 |
| 8 | 書写 | 硬筆、毛筆など書写の指導内容や方法を理解する。 | 復) 授業内容を整理する。□ | 90 |
| 9 | 予備日 | | | |
| 10 | 予備日 | | | |
| 11 | 予備日 | | | |
| 12 | 予備日 | | | |
| 13 | 予備日 | | | |
| 14 | 予備日 | | | |
| 15 | 予備日 | | | |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等算数科教育法 | 科目ナンバリング | T02L22057 |
| 担当者氏名 | 赤井 利行 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

受講者が学習指導要領に示された小学校算数科の教育目標や指導内容を理解する。また、小学校算数科における児童の学習の実際や特徴について理解するとともに、学習評価の在り方について理解する。そして、小学校算数科の実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。さらに、小学校算数科における基本的な指導方法を理解し、授業づくりの方法を身に付ける。

《授業外学習》

インターンシップ等の活動の折、授業で考察した観点から算数科授業を観察する。

《テキスト》

・文部科学省「学習指導要領解説算数科編」

《学習状況・理解度の確認》

レポート、学習指導案等に対して別の用紙にコメントを記入して配布する。・解からないことはふオフィスアワー等で質問を受け付ける。・授業の到達目標に対しては、全体講評を行い、次年度目標に反

《参考図書》

・赤井利行編「表現力を育成する新算数科教材開発第2 学年」
明治図書

《備考》

・小学校算数科授業が展開できる基礎的な知識・技能を修得することを求める。
・プレゼン、グループ討議を行う。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|----------------------------------|--|
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習指導要領をもとに、算数科授業の目標や授業に向けた学習環境の構成及び教材研究の取り組み方を理解できる。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | グループで作成した学習指導案を基に授業を展開し、よりよい授業に修正し、作ることができる。 |
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 自力解決や集団解決の場で児童への対応など教師の役割を理解することができる。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 20 |
| 発表・実技 | 70 |
| 授業内課題 | 10 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------|---|-----------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 小学校算数科指導のねらいとその方法を理解する。 | 教科書を読む | 60 |
| 2 | 学習指導要領の分析 | 小学校算数科指導の目標と、授業構成の関係を理解する。 | 学習指導要領を読む | 60 |
| 3 | 教材研究の視点 | 授業における数学的活動 | 教科書を読む | 60 |
| 4 | 授業における数学的活動 | 授業ビデオを基に、児童の理解を促す数学的活動を理解し、その数学的活動を体験する。 | 学習ノートを読む | 60 |
| 5 | 授業における個への対応 | 授業ビデオを基に、自力解決や集団解決の場で児童の理解の差にどのように対応し、理解を促すか、その手立てを理解する。 | 学習ノートを読む | 60 |
| 6 | 学習評価 | 机間指導、集団解決の場など様々な学習場面での評価の方法を理解する。 | 教科書を読む | 60 |
| 7 | 数学的表現の育成 | 児童の表現活動が既習事項の活用、視覚的表現の活用、論理的な表現で構成されていることを理解する。 | 教科書を読む | 60 |
| 8 | ICTの活用 | ICTの活用について、先進校で取り入れられている方法を理解し、これからの方向性について考察する。 | 教科書を読む | 60 |
| 9 | 教材研究 | 小学校2年生の教材について、模擬授業を行うにあたり、どのように指導するのかその教材を分析し、検討する。 | 教科書を読む | 60 |
| 10 | 学習指導案の作成 | 教育実習及び小学校現場で行われている授業研究に際し、用いられる学習指導案を作成することができるようにする。 | 教科書を読む | 60 |
| 11 | 数と計算の模擬授業 | 学生自身が作成した数と計算の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。 | 学習指導案を読む | 60 |
| 12 | 図形の模擬授業 | 学生自身が作成した図形の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。 | 学習指導案を読む | 60 |
| 13 | 測定の模擬授業 | 学生自身が作成した測定の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。 | 学習指導案を読む | 60 |
| 14 | データの活用の模擬授業習 | 学生自身が作成したデータの活用の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。 | 学習指導案を読む | 60 |
| 15 | 総括 | 授業ビデオを観察し、受講者が作成した学習指導案と比較し、よりよい学習指導案を作るように修正し、学習指導案の作成の理解を深める。 | 教科書を読む | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------|-------|---|----------|------------------------|
| 科目名 | 初等算数科内容論 | | | 科目ナンバリング | T02L21047 |
| 担当者氏名 | 赤井 利行 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 | ・ 選 | 開講年次・開講期 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

受講者には、小学校における算数科の授業を担当するために必要な(数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用)の実践的な数理運用力を、授業場を意識しながら身に付ける。また、幼稚園、小学校、中学校の関連性を踏まえながら、小学校における算数科を担当するための必要な背景となる知識を身に付けてほしい。

《授業外学習》

・教科書の指定箇所を読んでおくこと。・授業に沿った問題プリントを配布するので、次回までに行っておくこと。・学習ノートを作成して、整理して、理解すること。

《テキスト》

- ・文部科学省「学習指導要領解説算数科編」
- ・赤井利行編「わかる算数科指導法 改訂版」東洋館出版社

《学習状況・理解度の確認》

小テスト・試験等に対して別の要旨にコメントを記入して配布する。・解からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。・授業の到達目標に対しては、全体講評を行い、次年度目標に反映させる。

《参考図書》

指定なし

《備考》

- ・小学校算数教科書の背景にある考え方を理解することを求める。
- ・プレゼン、グループ討議を行う。
- ・授業担当者は広島大学附属小学校教員の実務経験者である。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習指導要領の目指す目標及び考え方を理解する。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 小学校で学習する数学的内容の位置づけを確認し、教材間の関連性を理解する。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を履修する力 | 具体的な生活や学習の場面を基にし、問題発見をする楽しさを理解し、問題解決をする過程を獲得する。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 50 |
| 小テスト | 30 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 10 |
| 授業内課題 | 10 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------------------|--|--------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 算数の価値を理解し、算数教育の歴史を学ぶ | テキストを読む | 60 |
| 2 | (1)算数科のねらい | 指導要領に基づき、今日求められる算数の位置づけを理解し目指すべき方向を確認する。 | テキストを読む | 60 |
| 3 | (2)数学的な見方・考え方 | 数学的な見方・考え方を確認し、帰納的・演繹的な考え方を事例を基に理解する。 | 配布プリントを読み、理解 | 60 |
| 4 | 数と計算に関する基本的な数理運用力 | 整数・小数・分数の意味および整数の性質や、整数・小数・分数の四則計算の意味とその計算方法について考え、理解する。 | テキストを読む | 60 |
| 5 | 図形に関する基本的な数理運用力 | 数学的活動を基に図形を構成する活動を理解する。及び図形の性質や面積の求め方を発展的に考える方法を理解する。 | 復習ノート | 60 |
| 6 | 変化と対応・グラフの活用に関する基本的な数理運用力 | データを整理する観点に着目して、目的に応じてデータの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を理解する。 | 配布プリントを読み、理解 | 60 |
| 7 | 現実および数学の世界の数学的探求 | 子供の身の回り起こる事象を数学の観点から問題化して捉え、問題を解決していく方法を分析・考察する。 | 復習ノート | 60 |
| 8 | 問題発見・解決・発展の過程としての数学および総括 | 数学の学習を問題発見から、どのように解決していくか解決の過程を学び、その学びをいかに発展させていくか一連の過程を理解する | 配布プリントを読み、理解 | 60 |
| 9 | | | | 45 |
| 10 | | | | 45 |
| 11 | | | | 45 |
| 12 | | | | 45 |
| 13 | | | | 45 |
| 14 | | | | 45 |
| 15 | | | | 45 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------|-------|---|----------|------------------------|
| 科目名 | 初等社会科教育法 | | | 科目ナンバリング | T02L22056 |
| 担当者氏名 | 關 浩和 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 2 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

本講義では、社会科の教科理念を把握し、社会科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。また本授業により、社会科の教師として1単元、1時間の授業を行うためには、「何をどのようにすればよいのか」を体得し、その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることが求められます。

《テキスト》

關浩和『初等社会科内容論研究』吉本宝文堂、2022年。
頒布価格1,000円。必ず購入してください。
1年次で履修した「初等社会科内容論」で使用したテキストで

《参考図書》

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省HP

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について、参考文献や資料を基に各自で調べ、自分のめざす社会科授業とは、どんな授業にしたいかを個々に考える。
・普段からニュースや新聞などに目を通して、幅広い視野から講義内容について理解できるようにする。

《学習状況・理解度の確認》

・社会科の基礎的知識の定着を図るため、毎回の講義で小テストを実施する。

《備考》

・まじめに参加することが大切です。
Social Studies Teaching Methodology

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|--|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習指導要領における社会科の目標、内容、カリキュラムの基本原則について理解している。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 各学年における社会科の学習内容を理解するとともに、学習内容が設定されている理由を説明することができる。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を履修する力 | 社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係性を意識しながら、教材研究や社会科模擬授業に活用している。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 30 |
| 発表・実技 | 40 |
| 授業内課題 | 30 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-------------------|--|-------------|-----------|
| 1 | 社会科の基本的性格 | 社会科授業における社会認識形成や公民的資質の育成の視点から理解するとともに、研究対象とする単元を選定する。 | 単元設定内容整理 | 45 |
| 2 | 第3学年社会科授業事例研究 | 第3学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し、何に注目して授業づくりをすればいいのかを理解する。 | 教材研究内容整理 | 45 |
| 3 | 第4学年社会科授業事例研究 | 第4学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し、何に注目して授業づくりをすればいいのかを理解する。 | 教材研究内容整理 | 45 |
| 4 | 第5学年社会科授業事例研究 | 第5学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し、何に注目して授業づくりをすればいいのかを理解する。 | 教材研究内容整理 | 45 |
| 5 | 第6学年社会科授業事例研究 | 第6学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し、何に注目して授業づくりをすればいいのかを理解する。 | 教材研究内容整理 | 60 |
| 6 | 社会科授業設計の理論 | 社会科授業における発問・指示・説明の教師の教授行為に着目をして子どもの知的好奇心を喚起できる社会科授業設計について考える。 | 授業デザイン作成 | 60 |
| 7 | 社会科授業における教育技術 | 社会科授業における板書構成に着目をして、機能的な板書とともに、子どもの意見で構成する板書の活用について理解する。 | 授業デザイン作成 | 60 |
| 8 | 社会科学習指導案の作成 | 単元目標や評価規準の設定、単元設定の理由、本時の学習過程など学習指導案作成のための基本的事項を理解する。 | 学習指導案作成内容整理 | 90 |
| 9 | 社会科授業実践1－教材研究発表－ | 模擬授業で対象とする単元の教材研究の成果を発表し、社会科授業における教材研究の重要性を理解する。 | 教材研究内容整理 | 90 |
| 10 | 社会科授業実践2－学習指導案発表－ | 単元目標や評価規準の設定、単元設定の理由、本時の学習過程などを組み込んだ学習指導案を発表し、発問と板書計画を絡めて模擬授業実践に | 学習指導案作成内容整理 | 90 |
| 11 | 社会科授業実践3－模擬授業1－ | 第3学年を選択した受講生が、1時間の社会科授業において、ICT活用をした実践を行い、全体で社会科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 | 60 |
| 12 | 社会科授業実践4－模擬授業2－ | 第4学年を選択した受講生が、1時間の社会科授業において、ICT活用をした実践を行い、全体で社会科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 | 60 |
| 13 | 社会科授業実践5－模擬授業3－ | 第5学年を選択した受講生が、1時間の社会科授業において、ICT活用をした実践を行い、全体で社会科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 | 60 |
| 14 | 社会科授業実践6－模擬授業4－ | 第6学年を選択した受講生が、1時間の社会科授業において、ICT活用をした実践を行い、全体で社会科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 | 60 |
| 15 | 社会科の授業設計の理論と方法 | 社会科の教科理念を把握し、社会科の授業設計に関する基本を理解することができる。 | 社会科授業設計講義総括 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等社会科内容論 | 科目ナンバリング | T02L21046 |
| 担当者氏名 | 關 浩和 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

本講義では、社会科の教科理念を把握し、社会科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など初等社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。本講義は、2年次履修の「初等社会科教育法」の前提の科目です。社会科に関する基礎的知識を身に付けることが求められます。

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について、参考文献や資料を基に各自で調べ、自分のめざす社会科授業とは、どんな授業にしたいかを個々に考える。
 ・普段からニュースや新聞などに目を通して、幅広い視野から講義内容について理解できるようにする。

《テキスト》

關浩和『初等社会科内容論研究』吉本宝文堂、2022年。
 講義の初回に配付します。頒布価格1,000円。必ず購入してください。

《学習状況・理解度の確認》

・社会科の基礎的知識の定着を図るため、毎回の講義で小テストを実施する。

《参考図書》

・全国社会科教育学会編（2011）『社会科教育実践ハンドブック』明治図書
 ・全国社会科教育学会編（2015）『新社会科授業づくりハンドブック』明治図書

《備考》

・まじめに参加することが大切です。
 Curriculum Theory in Elementary Social Studies

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習指導要領における社会科の目標、内容、カリキュラムの基本原則について理解している。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 各学年における社会科の学習内容を理解するとともに、学習内容が設定されている理由を説明することができる。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を履修する力 | 社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係性を意識しながら、教材研究や授業設計に活用している。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 40 |
| レポート | 20 |
| 発表・実技 | 20 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|----------------|---|-----------|-----------|
| 1 | 社会科の基本的性格 | 社会科の目標、内容について学習指導要領における学力観の変遷、社会認識形成や公民的資質の育成の視点から理解する。 | 単元設定内容整理 | 60 |
| 2 | 中学年社会科の学習内容 | 中学年社会科地域学習及び都市基盤学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。 | 教材研究内容整理 | 60 |
| 3 | 第5学年社会科の学習内容① | 第5学年社会科産業学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。 | 教材研究内容整理 | 60 |
| 4 | 第5学年社会科の学習内容② | 第5学年社会科国土・防災学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。 | 授業デザイン作成 | 60 |
| 5 | 第6学年社会科の学習内容① | 第6学年社会科歴史学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。 | 授業デザイン作成 | 60 |
| 6 | 第6学年社会科の学習内容② | 第6学年社会科政治学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。 | 授業デザイン作成 | 60 |
| 7 | 第6学年社会科の学習内容③ | 第6学年社会科国際交流学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。 | 教材準備内容整理 | 60 |
| 8 | 社会科の授業設計の理論と方法 | 社会科の教科理念を把握し、社会科の授業設計に関する基本を理解することができる。 | 講義総括 | 90 |
| 9 | 予備日 | | | |
| 10 | 予備日 | | | |
| 11 | 予備日 | | | |
| 12 | 予備日 | | | |
| 13 | 予備日 | | | |
| 14 | 予備日 | | | |
| 15 | 予備日 | | | |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|------------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等図画工作科教育法 | 科目ナンバリング | T02L22061 |
| 担当者氏名 | 半田 結 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

小学校の図画工作科の内容と指導法について、ICTを活用して具体的な事例を取り上げながら学びます。小学校図画工作科学習指導要領をもとに、図画工作科の理念や背景、学習指導、小学校図画工作科の目標や内容等をふまえ、現代的な課題の理解を深めます。まとめとして、図画工作科の授業計画の一部を構想、計画して模擬授業を行い、研究討議を行います。

《授業外学習》

○子どもと直接関わる機会をもったり、子どもに関するニュースや書籍等を読んだりして、子どもを多面的に理解するよう努めましょう
○音楽や美術、ダンス、パフォーマンス、詩、文学など、自分の興味・関心のある分野について、積極的に調べたり楽しむようにしましょう

《テキスト》

佐藤洋照・藤江充編著『図画工作科指導法研究』日本文教出版、2021

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業毎に、学習内容の確認と次回授業への準備・予習がありません。提出物や課題に対してはコメントや評価をし、必要な場合は再提出を求めます。

《参考図書》

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編

《備考》

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|---------------------------|
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 図画工作科の理念や背景について理解する |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 図画工作科の各学年における学習指導について理解する |
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力 | 図画工作科の各学年における学習指導を計画できる |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|-----------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 40 |
| 授業内課題 | 40 |
| その他(振り返り) | 20 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-----------------|---|----------------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション□ □ | 図画工作科の意義や目的について学ぶ | テキストpp. 7-18 | 45 |
| 2 | 図画工作科の目標と内容 | 学習指導要領における図画工作科の目標と内容について | テキストpp. 19-28, pp. 29-42 | 45 |
| 3 | 子どもの成長・発達と授業づくり | 子どもの成長と表現活動をふまえ、授業づくりについて学ぶ | テキストpp. 43-54, pp. 55-64 | 45 |
| 4 | 造形遊び:材料をもとに | いろいろな材料をもとにした造形遊びに関する学習指導を行う | テキストpp. 74-85 | 45 |
| 5 | 絵に表すを主とした指導① | 絵に表すを主とした学習指導について、目標と内容を中心に行う | テキストpp. 86-89, pp. 124-129 | 45 |
| 6 | 絵に表すを主とした指導② | 絵に表すを主とした学習指導について、指導方法、用具・材料の扱いを中心に行う | テキストpp. 138-149 | 45 |
| 7 | 立体に表すを主とした指導① | 立体に表すを主とした学習指導について、目標と内容を中心に行う | テキストpp. 70-73, pp. 90-93 | 45 |
| 8 | 立体に表すを主とした指導② | 立体に表すを主とした学習指導について、指導方法、用具・材料の扱いを中心に行う | テキストpp. 138-149 | 45 |
| 9 | 鑑賞に関する学習指導① | ICTを活用して美術作品の情報収集を行い、グループワークを通して、鑑賞の目標と内容について学ぶ | テキストpp. 94-97 | 45 |
| 10 | 鑑賞に関する学習指導② | ICTを活用して美術作品の情報収集を行い、グループワークを通して、指導方法について学ぶ | テキストpp. 150-159 | 45 |
| 11 | 図画工作科の評価 | 図画工作科における評価の理論と実際について学ぶ | テキストpp. 130-137 | 45 |
| 12 | 学習指導計画の立案と教材研究① | 学習指導案を作成する | テキストpp. 19-28, pp. 55-64 | 45 |
| 13 | 学習指導計画の立案と教材研究② | 模擬授業を実施し、振り返りを行う | テキストpp. 19-28, pp. 55-64 | 45 |
| 14 | 学習指導計画の立案と教材研究③ | 学習指導案の再検討と修正を行う | テキストpp. 130-137 | 45 |
| 15 | 振り返りとまとめ | これまでの学修を振り返り、実践に向けた課題を明らかにする | テキストpp. 7-18 | 45 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|------------|----------|------------|
| 科目名 | 初等図画工作科内容論 | 科目ナンバリング | T02L21051 |
| 担当者氏名 | 半田 結 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

本授業では、小学校学習指導要領の「図画工作」の目標を理解した上で、図画工作に関する基礎的な力を身につけることを目指します。図画工作の授業を構想・計画・実践するために必要な造形的な力を育成するために、平面や立体の表現制作を体験し、鑑賞活動の方法と展開などについて学びます。

《授業外学習》

○小・中学校で使った「図画工作」や「美術」の教科書を改めて見ましょう。好きなもの、気になるものはありますか。授業のヒントがたくさん詰まっています。
○日常生活のなかで、自分が美しい、好ましい、素敵だと感じる物や事は何か、意識してみましょう。
○日頃からいろいろなものにふれて、自分の感覚を磨いておきましょう。

《テキスト》

図画工作科・美術科教育法研究会 編『図画工作科・美術科教育法』建帛社、2019年

《学習状況・理解度の確認》

・授業では振り返り課題があります。
・課題に対してはコメントをつけて返却し、必要な場合は再提出を求めることがあります。

《参考図書》

小学校学習指導要領（2017年文部科学省告示）

《備考》

体験的な学びを多く取り入れますので、服装や準備物等の用意が必要な場合があります。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|----------------------------------|----------------------------|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 図画工作で必要とされる基礎的な技能や能力を身につける |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 様々な事例を参考にして新たな教材を開発できる |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 子どもの発達を踏まえた指導内容を構想することができる |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 20 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 40 |
| 授業内課題 | 40 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-----------|--|--------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | ・ 授業の進め方や評価、テキストについて ・ 小学校図画工作科学習指導要領、図画工作科教科書等について | テキストpp. 2-7を読む | 45 |
| 2 | 絵に表す① | ・ 幼児期から学童期の描画の特徴を学ぶ ・ 基本的な画材や道具の特徴を体験しながら学ぶ①鉛筆、クレヨン・パ | テキストpp. 92-99を読む | 45 |
| 3 | 絵に表す② | ・ 基本的な画材や道具の特徴を体験しながら学ぶ②紙、水彩絵具 | テキストpp. 100-109を読む | 45 |
| 4 | 立体に表す | ・ 幼児期から児童期の立体的な試みや表現について体験しながら学ぶ | テキストpp. 118-119を読む | 45 |
| 5 | 工作に表す | ・ 幼児期から児童期の工作に表す活動の特徴を体験しながら学ぶ | テキストpp. 144-149を読む | 45 |
| 6 | 造形遊び | ・ 造形遊びの歴史と位置づけについて学ぶ ・ 造形遊びの特徴を体験しながら学ぶ | テキストpp. 84-89を読む | 45 |
| 7 | 鑑賞 | ・ 鑑賞の意味や意義について学ぶ ・ 対話型鑑賞法を体験しながら学ぶ | テキストpp. 164-171を読む | 45 |
| 8 | まとめ | ・ これまで学んだことを振り返り、今後の課題を整理する | テキストpp. 8-9を読む | 45 |
| 9 | | | | 45 |
| 10 | | | | 45 |
| 11 | | | | 45 |
| 12 | | | | 45 |
| 13 | | | | 45 |
| 14 | | | | 45 |
| 15 | | | | 45 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------|-------|---|----------|-----------------------|
| 科目名 | 初等生活科教育法 | | | 科目ナンバリング | T02L22059 |
| 担当者氏名 | 關 浩和 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

本講義は、生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。また、本講義は、生活科教師として1単元、1時間の授業を行うためには、「何をどのようにすればよいのか」を体得し、その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることが求められます。

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について、参考文献や資料を基に各自で調べ、自分のめざす生活科授業とは、どんな授業にしたいかを個々に考える。

《テキスト》

・關浩和（2023）『初等生活科内容論研究』吉本堂
頒布価格1,000円。必ずテキストを購入してください。
このテキストは、初等生活科内容論で使用したテキストです。

《学習状況・理解度の確認》

・毎回の講義で既習事項の確認やリフレクションを実施することで、学習内容の定着を図る。

《参考図書》

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説生活編』文部科学省HP

《備考》

・まじめに参加することが大切です。
Life Environment Studies Teaching Methodology

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|--|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習指導要領における生活科の目標、内容、カリキュラムの基本原則について理解している。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 生活科の学習内容を理解するとともに、学習内容が設定されている理由を説明することができる。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力 | 生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、教材研究や生活科模擬授業に活用している。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 30 |
| 発表・実技 | 40 |
| 授業内課題 | 30 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------------|---|-------------------|-----------|
| 1 | 生活科の基本的性格 | 生活科授業における社会認識や自然認識、自己認識の形成の視点から理解するとともに、研究対象とする単元を選定する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 2 | 生活科授業事例研究 1 | 生活科における主に「社会」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して、何に注目して授業づくりをすればいいの理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 3 | 生活科授業事例研究 2 | 生活科における主に「自然：飼育・栽培」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して、何に注目して授業づくりをすればいいの理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 4 | 生活科授業事例研究 3 | 生活科における主に「自然：季節」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して、何に注目して授業づくりをすればいいの理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 5 | 生活科授業事例研究 4 | 生活科における主に「成長」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して、何に注目して授業づくりをすればいいの理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 6 | 比較・分類思考による生活科授業デザイン | 比較・分類思考を中核に据え、子どもの知的好奇心を喚起して、生活科授業設計を行うためのノウハウを学ぶ。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 7 | 生活科授業における教育技術・活動構成 | 生活科授業における板書構成に着目をして、子どもの意見で構成する板書の活用と子どもの活動構成のあり方について理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 8 | 生活科における体験的活動とICT活用 | 生活科授業において重要な役割である体験的活動のあり方や「遊び」、ICT活用を授業に取り入れる意義を考える。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 9 | 生活科学習指導案の作成 | 単元目標や評価規準の設定、単元設定の理由、本時の学習過程など学習指導案作成のための基本的事項を理解する。 | 学習指導案作成 版書計画立案 | 90 |
| 10 | 生活科授業実践 1－模擬授業 1－ | 学校生活や社会に関する内容を選択した受講生が、1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い、全体で生活科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 内容整理 | 90 |
| 11 | 生活科授業実践 2－模擬授業 2－ | 学校の生活や自然に関する内容を選択した受講生が、1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い、全体で生活科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 内容整理 | 90 |
| 12 | 生活科授業実践 3－模擬授業 3－ | 学校の生活や自然に関する内容を選択した受講生が、1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い、全体で生活科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 内容整理 | 90 |
| 13 | 生活科授業実践 4－模擬授業 4－ | 学校の生活や成長に関する内容を選択した受講生が、1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い、全体で生活科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 内容整理 | 90 |
| 14 | 生活科授業実践 5－模擬授業 5－ | 学校の生活や成長に関する内容を選択した受講生が、1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い、全体で生活科授業のあり方について討議する。 | 模擬授業準備 内容整理 | 90 |
| 15 | 生活科の授業設計の理論と方法 | 生活科の教科理念を把握し、生活科の授業設計に関する基本を理解することができる。 | 講義総括 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------|-------|---|----------|------------------------|
| 科目名 | 初等生活科内容論 | | | 科目ナンバリング | T02L21049 |
| 担当者氏名 | 關 浩和 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 | ・ 選 | 開講年次・開講期 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

本講義では、生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など生活科の授業づくりに関する基本を理解することができる。本講義は、2年次履修の「初等生活科教育法」の前提の科目です。生活科に関する基礎的素養を身に付けることが求められます。

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について、参考文献や資料を基に各自で調べ、自分のめざす生活科授業とは、どんな授業にしたいかを個々に考える。

《テキスト》

・關浩和（2023）『初等生活科内容論研究』吉本宝文堂
初回講義に配付します。頒布価格1,000円。必ずテキストを購入してください。

《参考図書》

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説生活編』文部科学省HP

《学習状況・理解度の確認》

・毎回の講義で既習事項の確認テストを実施することで、学習内容の定着を図る。

《備考》

・まじめに参加することが大切です。
Curriculum Theory in Elementary Life Environment Studies

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 学習指導要領における生活科の目標、内容、カリキュラムの基本原則について理解している。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 生活科の学習内容を理解するとともに、学習内容が設定されている理由を説明することができる。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力 | 生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、教材研究や授業設計に活用している。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 40 |
| レポート | 20 |
| 発表・実技 | 20 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------------|---|-----------------|-----------|
| 1 | 生活科誕生の経緯 | 学習指導要領の経験主義から系統主義に至る経緯を理解し、どのような経緯で平成元年に生活科誕生したのかを理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 2 | 生活科カリキュラムの編成原理 | 生活科カリキュラムは、4つの出会い（社会、自然、人間、自己）と3つの間（時間・空間・人間）で構成されていることを理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 3 | 生活科の意義① | 自立し生活を豊かにすることや4つの出会いを大切にすることの生活科の意義を理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 4 | 生活科の意義② | スクリプトを引き出すことやネットワークのハブ的役割を果たす生活科の意義を理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 5 | 生活科の理論的背景① | 生活科において方法的能力や自己意識、社会性を育てるための生活科の理論的背景を理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 6 | 生活科の理論的背景② | 生活科において空間的認識能力や自己表現力を育てるための生活科の理論的背景を理解する。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 7 | 比較・分類思考による生活科授業デザイン | 比較・分類思考を中核に据え、子どもの知的好奇心を喚起して、生活科授業設計を行うためのノウハウを学ぶ。 | テキストを読む 内容整理 | 60 |
| 8 | 生活科における評価 | 生活科授業においてPDCAサイクルを実践するための評価のあり方を学ぶとともに、教師の役割について理解する。 | 講義総括 ノート整理 | 60 |
| 9 | 予備日 | | | |
| 10 | 予備日 | | | |
| 11 | 予備日 | | | |
| 12 | 予備日 | | | |
| 13 | 予備日 | | | |
| 14 | 予備日 | | | |
| 15 | 予備日 | | | |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等体育科教育法 | 科目ナンバリング | T02L22063 |
| 担当者氏名 | 筒井 茂喜 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

1年次で学修したことを踏まえ、実践的指導力の習得をめざす。具体的には、「よい体育授業づくり」の基底的条件及び内容的条件を理解するとともに、「できない子ども」に対する具体的指導法（例えば、跳び箱が跳べない子どもへの指導、長縄跳びができない子どもへの指導など）を実技を通して学び実践力の向上を図る。

《授業外学習》

事前学習（予習）
 ・ 次回の授業範囲を配布資料及び関連する文献で予習し、概要をつかんでおく。
 事後学習（復習）
 ・ 授業後は、配布資料及び関連した文献を読み、理解の定着及び深化を図る。

《テキスト》

『小学校学習指導要領解説保健体育編』、文部科学省、東山書房

《学習状況・理解度の確認》

講義後に学びの振り返り及びレポート作成を通して知識の定着と深化を図る。

《参考図書》

『内容学と架橋する保健体育科教育論』、後藤幸弘・上原禎弘編、晃洋書房『3ステップで変わる 実技教科指導ガイドブック』小竹光夫編、明治図書

《備考》

・ グループディスカッションを行う。
 ・ 常に「問い」を持ち、講義に臨むことを期待する。
 ・ 実技指導では、指導法の実際を積極的に学びことを期待する。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--------------|-------------------------------------|
| | 運動有能感を高める体育授業を実践するための知識と指導技術を身につける。 |
| | |
| | |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 40 |
| 発表・実技 | 50 |
| 授業内課題 | 10 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------------------------------|--|----------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 本講義の概要を知るとともに、優れた実践から本講義で身につける指導法の具体を理解する。 | 配布資料の通読 | 45 |
| 2 | よい体育授業について | 優れた体育授業実践から「よい体育授業」の基底条件、内容条件について学ぶ。 | 配布資料の通読 | 45 |
| 3 | 体づくり運動について | 体づくり運動の目標及び内容について学ぶ。 | 配布資料の通読 | 45 |
| 4 | 体づくり運動の指導① ー 体ほぐしの運動と多様な動きをつくる運動ー | 心と体を解放する体ほぐしの運動と多様な動きを身につける運動の実際を学ぶ。 | 配布資料の通読 | 60 |
| 5 | 体づくり運動の指導② ー 長縄跳びを例にー | 長縄跳びが苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、長縄跳び運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップに | 配布資料の通読 | 60 |
| 6 | 器械運動について | 器械運動の目標及び内容について学ぶ | 配布資料の通読 | 60 |
| 7 | 器械運動の指導② ー 前転・後転を例にー | マット運動（前転・後転）が苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、前転・後転を例にしてマット運動の技の系統性及び運 | 配布資料の通読 | 60 |
| 8 | 器械運動の指導① ー 開脚跳びを例にー | 開脚跳びが苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、開脚跳びを例にして跳び運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたス | 配布資料の通読 | 60 |
| 9 | 陸上運動について | 陸上運動の目標及び内容について学ぶ | 配布資料の通読 | 60 |
| 10 | 陸上運動の指導 ー 折り返しリレーを例にー | リレーの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、低学年折り返しリレーを例にして、子どもがリレーに熱中する教材をつ | 配布資料の通読 | 60 |
| 11 | 陸上運動の指導 ー トラックリレーを例にー | 利得タイムを競い合うリレー教材及び指導法を身につける | 配布資料の通読 | 60 |
| 12 | ボール運動について | ボール運動の目標及び内容について理解する。 | 配布資料の通読 | 60 |
| 13 | ボール運動の指導① ー ならびっこベースボールを例にー | ベースボール型ゲームの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、低学年用ベースボール型ゲーム教材「ならびっこベー | 配布資料の通読 | 60 |
| 14 | ボール運動の指導② ー フットビーを例にー | ゴール型ゲームの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、中・高学年用ゴール型ゲーム教材「フットビー」を例にして、 | 配布資料の通読 | 60 |
| 15 | まとめ | 講義を振り返り、運動が苦手な児童への指導の原則をまとめる。 | 学びの振り返りをレポートにま | 60 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|----------|----------|------------|
| 科目名 | 初等体育科内容論 | 科目ナンバリング | T02L21053 |
| 担当者氏名 | 筒井 茂喜 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

小学校における体育科の目的・内容に関わる専門的知識を小学校学習指導要領解説体育編及びスポーツ諸科学（運動生理学、スポーツ心理学、スポーツバイオメカニクスなど）の知見をもとにした講義・演習を通して理解します。また、演習では、小学校体育授業で散見される問題を取り上げ、議論することを通して、その問題の根本的原因について考究します。

《授業外学習》

事前学習（予習）
 ・ 次回の授業範囲を小学校学習指導要領解説体育編及び文献にて予習し、概要をつかんでおく。
 事後学習（復習）
 ・ 授業後は関連した文献及びレポート作成を通して、理解の定着を図る。

《テキスト》

『小学校学習指導要領解説体育編』、文部科学省、東山書房

《学習状況・理解度の確認》

講義後に学びの振り返り及びレポート作成を通して知識の定着と深化を図る。

《参考図書》

『内容学と架橋する保健体育科教育論』、後藤幸弘・上原禎弘編、晃洋書房、 『3ステップで変わる 実技教科指導ガイドブック』小竹光夫編、明治図書

《備考》

・ グループディスカッションを行う。
 ・ 常に「問い」を持ち、講義に臨むことを期待する。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 小学校体育科の目標及び教育内容を理解する。 |
| ◎ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力 | スポーツ諸科学の知見をもとに小学校体育科の存在意義を理解する。 |
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 小学校学習指導要領解説体育編をもとに体育科の領域編成、各領域の目標及び内容を理解する。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 70 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 20 |
| 発表・実技 | 10 |
| 授業内課題 | 0 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--|---|--------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 本講義の概要と目標を理解し、これからの学習内容と方法を確認する。また、体育科の存在意義についての「問い」を持つ。 | 体育編、pp. 1-5 までを通読 | 45 |
| 2 | (1) 小学校体育科の目標と内容及び存在意義について (2) 運動有能感と非認知能力の関連について | ・ “小学校学習指導要領解説保健体育編” を元に、小学校体育科の目標と内容について理解する。又、スポーツ心理学の知見を元に小学校体育科の存在意義について理解する。 ・ 運動有能感と自己概念の形成及び非認知能力との関連についての理解を深める。 | 体育編、pp. 6-16 までを通読 | 45 |
| 3 | (1) 運動有能感について① (2) 小学校体育科の領域編成について | ・ 運動有能感の発達傾向から、その背景に存在する教師の指導について考究する。 | 配布資料を通読 | 45 |
| 4 | (1) 運動有能感について② (2) 小学校体育科の領域編成について | ・ 運動有能感の発達傾向から、その背景に存在する教師の指導について考究する。 | 配布資料を通読 | 45 |
| 5 | 各運動領域の目標と教育内容の理解 | 「小学校学習指導要領解説体育編」をもとに、各運動領域の目標と内容の概要を理解する。 | 配布資料を通読 | 45 |
| 6 | 体育授業づくりにおける教育内容明確化の理解 | 体育授業づくりにおける教育内容明確化の重要性を走運動を例に考究する。 | 配布資料を通読 | 45 |
| 7 | 体育授業づくりにおける教育内容明確化の理解 | 体育授業づくりにおける教育内容明確化の重要性を走運動を例に考究する。 | 配布資料を通読 | 45 |
| 8 | 自己の課題の明確化 | これまでの講義をふり返り、運動有能感を高める体育授業づくりにおける自己の課題を明確にする。 | 配布資料を通読 | 45 |
| 9 | | | | 45 |
| 10 | | | | 45 |
| 11 | | | | 45 |
| 12 | | | | 45 |
| 13 | | | | 45 |
| 14 | | | | 45 |
| 15 | | | | 45 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|---------|----------|------------|
| 科目名 | 初等理科教育法 | 科目ナンバリング | T02L22058 |
| 担当者氏名 | 安部 洋一郎 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

本授業で扱う本質的理解は、指導要領における理科の目標の理解とし、各授業時間の学習における学びを、指導要領における目標の文言に結び付けて理解を深めるものとする。理科の好きな児童は多いが教師にとって理科は指導の難しい教科であることとらえられることも多い。児童の主体的な問題解決を通して資質・能力の育成を行うためにも、理科の面白さを教師が再認識することが重要である。本授業では理科授業を指導する方法だけでなく、理科教育研究の知見から学ぶ理科教育の

《テキスト》

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説理科編』東洋館出版社

小学校理科教科書（2019）『わくわく理科3～6年』新興出版

《参考図書》

山下芳樹・平田豊誠（編著）（2018）『初等理科教育（新しい教職教育講座 教科教育編 4）』ミネルヴァ書房

《授業外学習》

本授業では、学習の成果として指導案を作成するが、作成にあたっての準備、計画、予備実験や、授業時間内に記述できなかった箇所の記述、パソコンで文章を作成する作業など、授業外の時間にも作業する必要がある。また、各授業の予習、復習を行うことで、学習内容の確実な定着を図ってほしい。

《学習状況・理解度の確認》

指導案の記述をもって指導内容の理解を確認する。

《備考》

Teaching Method of Science for the Elementary School
 ・授業ではディスカッションやグループワーク、実習を行う。
 ・科目担当者は実務経験者（西宮市立公立小学校教員、西宮市教育委員）

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|----------------------------------|---|
| ○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 児童の学びの本質を捉え教育学の知見を活かした授業実践を行うことができる。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | I C T等の授業技術を用いた理科授業を構想することができる。 |
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 学習指導要領における理科の目標を理解し、それぞれの単元の学習指導を行う十分な知識のもとに、問題解決を通して理科授業を構想することができる。 |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 50 |
| 授業内課題 | 50 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-----------------------|--|----------------|-----------|
| 1 | 問題解決の過程 | 具体的な問題解決場面での活動と指導要領の参照を通して、小学校理科授業を概観的に理解する。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 2 | 理科教育のねらい | 教科書をもとに、各授業で習得を図る資質・能力とは何かを考え、教育基本法の記述や、PISA等の国際調査からそれを深める。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 3 | 理科教育の特徴とI C Tの活用 | 「見方・考え方」や「科学的」など、他の教科と異なる理科教育の特徴を学び、その視点から授業を見つめなおし、I C Tを効果的に活用する | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 4 | 知識・理解の構造 | 小学校で扱う科学的内容に関する素朴概念や確証バイアスなどの理解に関わる認知的構造を学び、概念を再構成する授業の在り方を検討する。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 5 | 観察による仮説検証、発見とI C Tの活用 | 具体的な観察活動を通して、理論負荷性による観察の困難を学び、児童による観察を深めるための方法を考える。また、I C Tを活用した観察 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 6 | 評価について | 理科授業で行う評価の在り方についてその方法論を学び、実際の評価活動を通して具体を理解する。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 7 | 問題作り場面の指導 | 第3学年の学習を材料に、児童が主体的に問題作りを行うための指導方法を考える。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 8 | 予想・仮説形成場面の指導とI C Tの活用 | 第4学年の学習を材料に、児童が主体的に予想・仮説形成を行うための指導方法を考え、I C Tを活用した授業改善の方法を学ぶ。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 9 | 解決の方法の立案場面の指導 | 第5学年の学習を材料に、児童が主体的に解決の方法の立案を行うための指導方法を考える。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 10 | より妥当な考えの形成場面の指導 | 第6学年の学習を材料に、児童が主体的に解決の方法の立案を行うための指導方法を考える。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 11 | 理科教育研究総論 | 理科教育研究の歴史的経緯を踏まえつつ、今日の理科教育の在り方を概観する。 | 授業の内容を振り返る | 90 |
| 12 | 指導案の理解と作成 | 指導案の役割と書き方を知り、必要に応じて実際の実験器具を参照しながら本時案について記述する。 | 指導案作成の準備、記述を行う | 90 |
| 13 | 指導案の理解と作成 | 他の学生の記述した指導案を参照し自分の指導案を振り返るとともに、単元計画について記述する。また、評価の具体的な方法を検討する。 | 指導案作成の準備、記述を行う | 90 |
| 14 | 指導案の理解と作成 | 指導案における文章記述について知り、趣旨を記述する。 | 指導案作成の準備、記述を行う | 90 |
| 15 | 模擬授業の実施とふり振り返り | 模擬授業と事後検討会の実施を通して、授業研究の在り方を知り、自分たちの力で授業研究会を進める力を身に付ける。 | 授業の内容を振り返る | 90 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|---------|----------|-----------|
| 科目名 | 初等理科内容論 | 科目ナンバリング | T02L21048 |
| 担当者氏名 | 安部 洋一郎 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

教科の指導にあたっては、教師自身が指導内容を深く理解しておくことが求められる。本授業では、小学校理科教科書を参考に実際の実験や観察を交えて体験的に学ぶことで、教員として理科授業を行うために十分な、小学校理科における指導内容の習得を目指す。小学校理科における指導内容としては、科学的知識や実験器具の使い方等の技能だけでなく、思考力としての問題解決の力を取り扱うものとする。

《テキスト》

小学校理科教科書（2019）『わくわく理科3～6年』新興出版社啓林館

《参考図書》

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説理科編』東洋館出版社

平田豊誠・小川博士（編著）（2022）『小学校理科を教えるための知識と実践』加賀理科内容論指導法『東洋館』

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 小学校理科授業を行うに足る科学的理解を有し、観察・実験を安全、正確に行うことができる。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | 問題解決に向けて、他者と協働し、自らの学びを振り返りながら学習を進めることができる。 |
| ○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を履修させる力 | 自然事象に対する問題解決を授業に取り込み、児童の主体的な学習を引き出すことができる。 |
| | |
| | |

《授業外学習》

指定した文献の読了などの課題を課すため、次回の授業までに履行すること。
植物種子の発芽実験などの授業外での実験・観察を求めることがあるので、期限内に実施し、その結果を報告すること。

《学習状況・理解度の確認》

観察・実験の技能を習得しているか、他者とともに仮説を形成しそれを検証する問題解決の力を身につけているかを実技・授業内課題を通して確認する。

《備考》

Teaching Contents of Science for the Elementary School
・授業ではグループワーク・実験実習ICT活用双方向型授業を行う。
・ICT活用双方向型授業を行う。
科目担当者：安部洋一郎（〒520-0192 滋賀県彦根市彦根市立小学校教員 平田豊誠 教科書編集者）

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 50 |
| 授業内課題 | 50 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------|------------------------------------|---------------|-----------|
| 1 | 小学校理科で扱う内容 | オリエンテーション（講義の進め方） 小学校理科の指導内容の概観 | 講義内容の振り返り | 90 |
| 2 | 小学校第3学年の観察実験 | 「光と音の性質」等の物理教材の観察実験のポイント | 教科書の該当ページを読んで | 90 |
| 3 | 小学校第3学年の観察実験 | 「磁石の性質」等の物理教材の観察実験のポイント | 教科書の該当ページを読んで | 90 |
| 4 | 小学校第4学年の観察実験 | 「金属、水、空気と温度」等の化学教材の観察実験のポイント | 教科書の該当ページを読んで | 90 |
| 5 | 小学校第5学年の観察実験 | 「植物の発芽、成長、結実」等の生物教材の観察実験のポイント | 教科書の該当ページを読んで | 90 |
| 6 | 小学校第6学年の観察実験 | 「水溶液の性質」等の化学教材の観察実験のポイント | 教科書の該当ページを読んで | 90 |
| 7 | 小学校第6学年の観察実験 | 「土地のつくりと変化」等の地学教材の観察実験のポイント | 教科書の該当ページを読んで | 90 |
| 8 | まとめ | 小学校理科の指導内容の概観 | 講義内容の振り返り | 90 |
| 9 | 予備日 | | | |
| 10 | 予備日 | | | |
| 11 | 予備日 | | | |
| 12 | 予備日 | | | |
| 13 | 予備日 | | | |
| 14 | 予備日 | | | |
| 15 | 予備日 | | | |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|---|----------|-----------------------|
| 科目名 | 情報活用の実践 I | | | 科目ナンバリング | T03S22075 |
| 担当者氏名 | 河野 稔, 大江 実代子, 關 浩和, 赤井 利行, 安部 洋一郎 | | | 担当形態 | オムニバス |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、国語科、算数科、理科科、社会科を扱う。
また、学校現場で使用されているビジュアル型のプログラミング言語を用いて、演習形式でプログラミングの基礎を体験し、プログラミング的思考等とプログラミング教育を行う際に必要となる基本的な操作および方法論を体験的に学ぶ。

《テキスト》

授業においてプリントを適宜配布する。
また、文部科学省『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』の動画も適宜使用する。

《参考図書》

文部科学省『学習指導要領「生きる力」』
文部科学省『教育の情報化の推進』
上記以外の参考資料と参考Webページは適宜配付・紹介する。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|--------------------------------------|--|
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を担う能力 | 各教科等の指導においてICTを活用する際に求められる観点や教科等の特性に応じた活用法を説明できる。 |
| ○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する能力 | 各教科等の学習過程や指導内容に応じたICTを活用した授業設計と学習指導案を作成できる。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | プログラミング言語を用いてプログラムを作成でき、プログラミング教育で育成する資質・能力を説明できる。 |
| | |
| | |

《授業外学習》

各教科等でのICT活用では、文部科学省の『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』のWebページにある解説動画を予復習として視聴すること。また、事例分析の作業と発表準備をグループで協力して、授業外時間に進めておくこと。
プログラミングの体験では、ビジュアル型プログラミング言語の操作方法を確認しておくこと。また、作成したプログラムを発表するための準備にも授業外時間に取り組んでおくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

グループワークを行う、ICT活用双方向授業です。とくに、実践の事例分析と発表は、グループワークとプレゼンテーションを行います。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 40 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 60 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|----------------------|--|----------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 学校教育におけるICTを活用した学習場面について学習形態と関連づけて理解する。 | 各教科等でのICT活用の調査 | 60 |
| 2 | 国語科におけるICT活用(1) | 国語科でのICTの活用において、国語科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。 | 活用の解説動画の視聴 | 60 |
| 3 | 国語科におけるICT活用(2) | ICTを活用した授業事例を学び、国語科でのICT活用の特性について考察する。 | 事例分析と発表準備 | 90 |
| 4 | 算数科におけるICT活用(1) | 算数科でのICTの活用において、算数科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。 | 活用の解説動画の視聴 | 60 |
| 5 | 算数科におけるICT活用(2) | ICTを活用した授業事例を学び、算数科でのICT活用の特性について考察する。 | 事例分析と発表準備 | 90 |
| 6 | 理科におけるICT活用(1) | 理科でのICTの活用において、理科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。 | 活用の解説動画の視聴 | 60 |
| 7 | 理科におけるICT活用(2) | ICTを活用した授業事例を学び、理科でのICT活用の特性について考察する。 | 事例分析と発表準備 | 90 |
| 8 | 社会科におけるICT活用(1) | 社会科でのICT活用において、学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。 | 活用の解説動画の視聴 | 60 |
| 9 | 社会科におけるICT活用(2) | ICTを活用した授業事例を学び、社会科でのICT活用の特性について考察する。 | 事例分析と発表準備 | 90 |
| 10 | プログラミング教育とプログラミング的思考 | プログラミングがもたらす可能性、およびプログラミング教育の基本的な考え方とプログラミング的思考について理解する。 | プログラミング的思考の調査 | 60 |
| 11 | プログラミングの体験(1) | ビジュアル型プログラミング言語の基本的な操作を体験的に学ぶ。 | プログラミング言語の操作 | 90 |
| 12 | プログラミングの体験(2) | ビジュアル型プログラミング言語を用いて、簡単なプログラミングを体験的に学ぶ。 | プログラムの作成 | 90 |
| 13 | プログラミングの体験(3) | ビジュアル型プログラミング言語を用いて、各教科等で実施されたプログラミングを体験的に学ぶ。 | プログラムの作成 | 90 |
| 14 | プログラミングの体験(4) | ビジュアル型プログラミング言語で作成したプログラミングを発表し、その改善に取り組む。 | プログラムの作成と発表準備 | 90 |
| 15 | 全体のまとめとICT活用能力の育成 | 授業で取り組んだ各教科等でのICT活用等をまとめ、学習場面の分類に応じたICT活用の留意点について考察する。 | 各教科等でのICT活用の整理 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---|----------|------------|
| 科目名 | 情報活用の実践Ⅱ（デジタル教科書の活用含む） | | | 科目ナンバリング | T03S22076 |
| 担当者氏名 | 河野 稔, 井上 朋子, 半田 結, 關 浩和 | | | 担当形態 | オムニバス |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 |
| | | | | | 2 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、生活科、音楽科、図画工作科を扱う。デジタル教科書を活用した授業デザインやデジタル教材との連携も学ぶ。さらに、学校現場で使用された指導事例や教材等を分析し、模擬指導を実践することで、プログラミング教育に関する基礎的な知識と取り組み方を実践的に身につける。

《テキスト》

授業においてプリントを適宜配布する。
また、文部科学省『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』の動画も適宜使用する。

《参考図書》

文部科学省『教育の情報化の推進』
文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き』
上記以外の参考資料と参考Webページは適宜配付・紹介する。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|----------------------------------|--|
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 各教科等の指導においてICTを活用する際に求められる観点や教科等の特性に応じた活用法を説明できる。 |
| ○ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する | 各教科等の学習過程や指導内容に応じたICTを活用した授業設計と学習指導案を作成できる。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | デジタル教材等との一体的な使用を含めた、デジタル教科書を効果的に活用した学習方法と留意点を説明できる。 |
| ○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力 | プログラミング教育で育成する資質・能力を踏まえて、学習活動に応じたプログラミング教育の指導を設計できる。 |

《授業外学習》

各教科等でのICT活用では、文部科学省の『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』のWebページにある解説動画を予復習として視聴すること。また、事例分析の作業と発表準備をグループで協力して、授業外時間に進めておくこと。
プログラミング教育の実践についても、指導事例と教材などの分析、指導案の設計と教材作成は授業中に時間をとれないため、グループで協力して授業外時間に活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

グループワークを行う、ICT活用双方向授業です。とくに、プログラミング教育の模擬指導と発表は、グループワークとプレゼンテーションを行います。主体的かつ意欲的に参加することを期待します。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|---------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 0 |
| レポート | 40 |
| 発表・実技 | 10 |
| 授業内課題 | 50 |
| その他() | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|----------------------|--|--------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 情報活用の実践Ⅰでの、各教科等でのICTを活用した学習場面とプログラミング教育の基本的な考え方をふり返る。 | 情報活用の実践Ⅰのふり返り | 45 |
| 2 | 生活科におけるICT活用(1) | 生活科でのICTの活用において、生活科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。 | 活用の解説動画の視聴 | 60 |
| 3 | 生活科におけるICT活用(2) | ICTを活用した授業事例を学び、生活科でのICT活用の特性について考察する。 | 事例分析と発表準備 | 90 |
| 4 | 音楽科におけるICT活用(1) | 音楽科でのICTの活用において、音楽科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。 | 活用の解説動画の視聴 | 60 |
| 5 | 音楽科におけるICT活用(2) | ICTを活用した授業事例を学び、音楽科でのICT活用の特性について考察する。 | 事例分析と発表準備 | 90 |
| 6 | 図画工作科におけるICT活用(1) | 図画工作科でのICTの活用において、図画工作科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。 | 活用の解説動画の視聴 | 60 |
| 7 | 図画工作科におけるICT活用(2) | ICTを活用した授業事例を学び、図画工作科でのICT活用の特性について考察する。 | 事例分析と発表準備 | 90 |
| 8 | デジタル教科書の活用(1) | 指導者用デジタル教科書の特長や活用方法を理解し、デジタル教材等との連携やICT活用指導力との関連について考察する。 | デジタル教科書の活用事例を調査 | 60 |
| 9 | デジタル教科書の活用(2) | 学習者用デジタル教科書の特長や活用方法を理解し、デジタル教材等との連携や情報活用能力との関連について考察する。 | デジタル教科書の活用事例を調査 | 60 |
| 10 | 各教科等におけるプログラミング教育の実践 | プログラミング教育で育成する資質・能力と情報活用能力との関係、および各教科等での指導や評価について理解する。 | プログラミング教育の事例の調査 | 75 |
| 11 | プログラミング教育の実践(1) | プログラミング教育の実践を分析し、指導案や教材等を参考に、プログラミング教育の模擬授業をグループで設計する。 | 事例の指導案や教材等の分析 | 90 |
| 12 | プログラミング教育の実践(2) | グループで設計した指導案をもとに、教材やプログラムを作成する。 | 指導案と教材等の作成 | 120 |
| 13 | プログラミング教育の実践(3) | グループで作成した指導案と教材等を用いて模擬指導を実施し、相互に評価して、改善策を検討する。 | 模擬指導の準備 | 120 |
| 14 | プログラミング教育の実践(4) | グループで作成した指導案と教材等を用いて模擬指導を実施し、相互に評価して、改善策を検討する。 | 指導案や教材の改善 | 75 |
| 15 | 全体のまとめとICT活用指導力 | 授業で取り組んだ各教科等でのICT活用とプログラミング教育をまとめ、ICT活用の指導上の留意点について考察する。 | ICT活用指導力チェックリストの確認 | 60 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|----------------------|-------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 生徒指導・進路・キャリア教育の理論と方法 | | | 科目ナンバリング | T04L22098 |
| 担当者氏名 | 新井 肇 | | | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 2年・Ⅱ期 |

《授業の概要》

生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践において求められる理論と技法の習得をめざす。いじめ・不登校・暴力行為・非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待・ネット犯罪・自殺等の深刻な児童生徒の問題行動の情勢を捉え、その原因・背景を理解し、生徒指導実践において必要とされる方法（ガイダンス・カウンセリングなど）に関する理論と技法について学習する。また、進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図るとともに、青少年

《テキスト》

文部科学省（編）『生徒指導提要』（2022）
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdfよりダウンロード 講義時に適宜プリント資料を配布する

《参考図書》

日本生徒指導学会（編）『現代生徒指導論』（2015）学事出版

《授業外学習》

生徒指導の基本書である『生徒指導提要』を、授業前学習として自己の小・中・高校での体験と重ねながら読むとともに、授業後の振り返りとして、学習内容と関連付けながら読み込むことで、生徒指導の理論や方法の基礎的な力量の定着を図る。また、教育に関する時事的な問題に関心を持ち、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等の情報を分析するとともに、文部科学省通知や国立教育政策研究所資料、各種審議会答申等の検討を通して、今日求められている生徒指導及び進路指導・キャリア教育の実践内容について主体的に考察する態度を養う

《学習状況・理解度の確認》

授業内のグループワークや事例検討等における発言・発表や、個別課題に関する小レポートの内容等から理解度を測る。加えて、そこからみえてきた課題について全体協議を行い、理解度の深まりを捉える。

《備考》

課題に応じて、グループ協議や事例研究などの演習にも取り組むので、毎時間授業に出席し、積極的に学習に取り組んでほしい。また、授業で取り上げるテーマに関して、自分の小・中・高等学校時代の経験を振り返り、授業中に積極的に発言し、自分の考えを表現してほしい。

《成績評価の方法と評価の割合》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 | 評価方法(%) | |
|----------------------------------|--|---------|---------|--|
| 学校教育における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置づけの理解 | 生徒指導・進路指導・キャリア教育の概念を明確に理解し、学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解する。 | 試験 | 0 | |
| 児童生徒理解に基づく生徒指導実践の理論と方法 | 児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動に対する適切な指導方法を実践できる。 | 小テスト | 0 | |
| 進路指導・キャリア教育の理論と方法 | 進路に関する課題について理解し、進路指導・キャリア教育の基礎的な知識と指導方法の習得をめざす。 | レポート | 70 | |
| 学校内外の連携の基づく組織的生徒指導の進め方 | 学校における危機管理能力や学校内外の連携を進めるコーディネート能力につながる基礎的な力量を形成することを目標とする。 | 発表・実技 | 0 | |
| | | 授業内課題 | 30 | |
| | | その他（ ） | 0 | |
| | | 合計 | 100 | |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------------------|---|----------------|-----------|
| 1 | 生徒指導と進路指導の教育的意義と目標 | 生徒指導と進路指導の意義・目的・内容について概観し、生徒指導と進路指導の教育的意義と目標等について学ぶ。 | 自己の生徒指導経験を振り返る | 45 |
| 2 | 生徒指導・進路指導・キャリア教育の定義・歴史・理論 | 日本の学校における生徒指導・進路指導の歴史を振り返り、生徒指導・進路指導・キャリア教育や定義、基盤となる理論について検討する。 | 『生徒指導提要』の1章を読む | 60 |
| 3 | 教育課程の諸領域と生徒指導・進路指導の位置づけ | 生徒指導・進路指導が学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解し、各教科、特別活動、道徳等との関係性について理解する。 | 『生徒指導提要』の2章を読む | 60 |
| 4 | 生徒指導における児童生徒理解と理論と実際 | 生徒指導における児童生徒理解の意味と理解のための理論、及び実際の教育活動において求められる技法について学ぶ。 | 『生徒指導提要』の3章を読む | 60 |
| 5 | 非行問題の理解と対応 | 暴力行為、インターネットや性に関する課題など、広く非行問題を理解するとともに、基本的な生活習慣の確立、安全教育の重要性を理解する。 | 新聞等から最近の少年犯罪を検 | 60 |
| 6 | 不登校の理解と対応 | 不登校・ひきこもり・高校中退について心理学・社会学の理論による検討を行い、非社会的問題行動への対応について学ぶ。 | 『生徒指導提要』の6章を読む | 60 |
| 7 | いじめ問題の理解と対応 | いじめを心理学、社会学の視点から理解し、「いじめ防止対策推進法」制定以後の対応の方向性と課題について学ぶ。 | 母校のいじめ防止基本方針を検 | 75 |
| 8 | 児童生徒の自殺予防対策の理解と方法 | 自殺の現状と背景、リスクの高い児童生徒への関わり、学校危機への対応について学ぶとともに、自殺予防教育の進め方を理解する。 | 自殺対策基本法を読む | 60 |
| 9 | 生徒指導に関する主要法令の理解と人権教育 | 校則、懲戒、体罰等に関する主要法令について理解し、児童生徒の人権保障の視点から生徒指導の方向性について検討する。 | 『生徒指導提要』の5章を読む | 60 |
| 10 | 生徒指導の校内体制の組織化と関係機関との連携・協働 | 組織的生徒指導の重要性と、児童虐待や家庭の貧困等、学校だけでは解決困難な問題に関する専門機関との連携の必要性を理解する。 | 『生徒指導提要』の4・8章を | 90 |
| 11 | 進路指導とキャリア教育の意義と内容 | 職業観・勤労観の育成、自己理解の促進、生き方あり方など、多様な課題をもつキャリア教育の意義について学ぶ。 | 自分が受けた進路指導を振り返 | 45 |
| 12 | 進路指導・キャリア教育の理論的背景 | キャリア教育に関する国内外の諸理論を概観する。特に、最近の理論的動向（シャイン、クランボルツ、等）について学ぶ。 | 関心のあるキャリア理論を調べ | 75 |
| 13 | 進路指導における児童生徒理解の方法 | キャリアカウンセリングの理論と実際について、ロールプレイなどをまじえて体験的に学ぶ。 | 『生徒指導提要』の5章3節を | 45 |
| 14 | キャリア教育の先進的実践事例の検討 | 日本のキャリア教育の代表的な実践事例を紹介し、今後の取り組みの方向性と課題について学ぶ。 | 先進的な実践事例について調べ | 90 |
| 15 | 学校における生徒指導・進路指導の今後の課題 | 生徒指導、及び進路指導の課題について、各自の所見を発表し、全体で討議するとともに、講義全体の振り返りを行う。 | 自己の経験を事例としてまとめ | 90 |

《専門教育科目》

| | | | | | |
|-------|--------------|-------|---|----------|-----------------------|
| 科目名 | 総合的な学習の理論と実践 | | | 科目ナンバリング | T04L22094 |
| 担当者氏名 | 林 敦司, 勝見 健史 | | | 担当形態 | オムニバス |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 | ・ 選 | 開講年次・開講期 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

総合的な学習の時間の意義や内容、カリキュラム、探究的な学習と横断的・総合的な学習展開について、学校の実践レベルでの具体的な事例の分析とそれに基づくディスカッション及びグループワークを通して考察する。また、年間指導計画、単元の内容と立案、指導・評価の進め方について具体的なイメージを形成し、総合的な学習の時間の実施に必要な知識や技能を習得する。

《テキスト》

- 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省、東洋館出版
- 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』(小学校編) 文部科学省

《参考図書》

- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(小学校総合的な学習の時間) 国立教育政策研究所、東洋館出版

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | | 授業の到達目標 |
|--------------|--------------------------------|---|
| ○ | 3-2 自らの教育・保育実践を省察する力 | 評価規準の指導計画への位置づけと、観点別学習状況の進め方を説明できる。 |
| ◎ | 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を | 総合的な学習の時間の充実に必要な条件整備について考え、教育環境をデザインすることができる。 |
| | | |
| | | |
| | | |

《授業外学習》

- 授業前にテキストの指定箇所を読んで、疑問点や課題をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
- 授業中での発表やグループ協議から得た学びをもとに、授業構想の見直しや学習指導案の改善を図ること。
- 総合的な学習の時間の探究課題となり得る事柄について、新聞記事や文献などから情報を収集すること。

《学習状況・理解度の確認》

- 毎回の授業にレポートを課し、授業の感想やグループワークに関する記載を求める。
- 授業前の小テストで、知識や用語の定着を確認する。

《備考》

- 毎回の授業は、講義とグループワークで構成する。
- 受講者が小学校で経験した学習を想起し、具体的な学習イメージを持って授業に参加してほしい。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|-----------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 10 |
| レポート | 50 |
| 発表・実技 | 40 |
| 授業内課題 | 0 |
| その他(授業演習) | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|--------------------------|---|-------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 本講義の内容や学習方法について確認するとともに、自身の経験を想起しながら具体的な学習イメージを持つ。 | ワークシート | 45 |
| 2 | 「総合的な学習の時間」設置の目的と学習指導要領 | 現代の子供たちの学力の実態と課題から、総合的な学習の時間の意義と教育活動全体における役割を考察する。 | テキスト1 p 1～p 7 | 45 |
| 3 | 「総合的な学習の時間」の目標と内容 | 学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、総合的な学習の時間の目標と内容、育成する資質・能力について考察する。 | テキスト1 p 8～p 23 | 60 |
| 4 | 「総合的な学習の時間」の学習指導の基本的な考え方 | 総合的な学習の時間の実践上の課題を明らかにしながら、探究的な学習の指導のあり方について考察する。 | テキスト2 p 24～p 58 | 90 |
| 5 | カリキュラム・デザイン作成のワークショップ | 総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメントの三つの側面に留意して、全体計画と年間指導計画を作成する。 | テキスト2 p 60～p 88 | 90 |
| 6 | 作成したカリキュラム・デザインの分析と検討 | 作成した年間指導計画の構想や内容について、グループで分析し検討する。 | プリントの整理 | 60 |
| 7 | 単元デザイン作成のワークショップ | 作成の手順を確認し、学習過程が探究的になるよう留意しながら、単元計画を具体的に書き表す。 | テキスト2 p 89～p 105 | 90 |
| 8 | 作成した単元デザインの分析と検討 | 作成した単元計画の構想や内容について、グループで検討・吟味してよりよいものにする。 | プリントの整理 | 60 |
| 9 | 授業デザイン作成のワークショップ① | 学習指導案の内容と作成のための手順を確認し、具体的な指導過程をデザインする。 | 学習指導案の作成 | 120 |
| 10 | 授業デザイン作成のワークショップ② | 総合的な学習の時間の指導の基本方針を踏まえ、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。 | 学習指導案の作成 | 120 |
| 11 | 作成した授業デザインの分析と検討 | 作成した学習指導案の、①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現、の探究のプロセスを確認する。 | 学習指導案の見直し・改善 | 120 |
| 12 | マイクロティーチング | 作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、探究的な学習の指導のあり方について検討する。 | 学習指導の振り返り | 120 |
| 13 | 実践事例を基にした評価方法の考察 | 総合的な学習の時間の評価のあり方を理解し、児童の学習状況と教育課程の評価について具体的な方法を検討する。 | テキスト2 p 106～p 111 | 60 |
| 14 | 「総合的な学習の時間」を支える体制整備 | 体制整備のための四つの視点に着目し、実践事例についてその効果を検討する。 | テキスト2 p 115～p 13 | 90 |
| 15 | 講義のまとめ | 本講義で学んだ総合的な学習の時間の理論と指導法を振り返り、教育課程において果たす役割について再考する。 | レポートの作成 | 120 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|-------|----------|-----------|
| 科目名 | 道徳教育論 | 科目ナンバリング | T04L22093 |
| 担当者氏名 | 林 敦司 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 2 年 ・ I 期 |

《授業の概要》

道徳教育の意義と理論について、学校における具体的な取組を分析・検討することで理解を深める。また、道徳科の特質を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現する授業づくりを進める。学習指導案の作成と模擬授業に重点を置き、①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法にチャレンジすることで、授業構想力と実践的指導力を身に付ける。

《テキスト》

- 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳』文部科学省、廣済堂あかつき株式会社
- 『新道徳教育全集 第3巻』日本道徳教育学会、学文社

《参考図書》

- 『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹・関根明伸 編著、教育出版
- 『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄 編集、教育開発出版

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------------|---|
| ○ 1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力 | 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義、その要としての道徳科について説明できる。 |
| ○ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力 | 道徳科の授業を多様かつ柔軟に発想し、学習指導案を作成することができる。 |
| ◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力 | 児童の学習状況や発言に配慮しながら、柔軟な授業展開を試みることができる。 |
| | |
| | |

《授業外学習》

- ・事前にテキストの指定箇所を読んで、専門用語や疑問点をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
- ・配布された道徳教材を読んで分析を行い、自分なりの授業構想を練っておくこと。
- ・毎回の授業の後に、ノートを整理するなど自己学習による補充を行うとともに、授業中での発表や話し合いから得た学びをもとに、授業構想の見直しや学習指導案の改善を図ること。□

《学習状況・理解度の確認》

- ・レポート（学習指導案）は、コメントを付して返却する。
- ・前半のまとめのテストでは、採点后に要点の解説を行うことで知識の確実な定着を図る。

《備考》

- ・受講者が教師役と児童役になって模擬授業を実践し、そのリフレクションを行う対面の授業である。
- ・課題意識を持って指導案作成や模擬授業に取り組んでほしい。

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法(%) | |
|-----------|-----|
| 試験 | 0 |
| 小テスト | 20 |
| レポート | 40 |
| 発表・実技 | 30 |
| 授業内課題 | 10 |
| その他（授業演習） | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|---------------------|---|------------------|-----------|
| 1 | オリエンテーション | 道徳授業の動画を視聴しながら、本講義の学習の見通しと課題を持つとともに、受講方法を確認する。 | テキスト1 p 10～p 21 | 45 |
| 2 | 近代日本の道徳教育の変遷と教科化の背景 | 我が国の道徳教育の変遷と世界の道徳教育の動向を踏まえ、現状と課題、道徳科に求められている課題を考察する。 | テキスト1 p 1～p 9 | 60 |
| 3 | 道徳教育の意義と道徳性の発達 | 学校教育全体で取り組む道徳教育の意義と、児童の心の成長課題について理解する。 | テキスト2 p 42～p 56 | 60 |
| 4 | 道徳科の内容と指導計画 | 内容項目の構成や取扱いについて理解し、道徳科の年間指導計画作成の方法や手順について考察する。 | テキスト2 p 65～p 72 | 60 |
| 5 | 道徳科の授業① | 具体的な授業実践をもとに、道徳科の特質を生かした授業づくりを進めるための基本方針を理解する。 | テキスト1 p 78～p 86 | 90 |
| 6 | 道徳科の授業② | 児童が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。 | テキスト2 p 125～p 13 | 90 |
| 7 | 道徳科の授業③ | 児童が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。 | これまでの授業内容の整理 | 90 |
| 8 | 前半のまとめ 授業づくりの構想 | 前半のまとめの小テスト（30分） 授業づくりに向けて構想を練る。 | 授業づくりのための教材選び | 60 |
| 9 | 学習指導案の作成① | 学習指導案の内容と作成のための主な手順を確認し、具体的な指導過程を構想する。 | 教材吟味と学習指導案の作成 | 120 |
| 10 | 学習指導案の作成② | 道徳科の指導の基本方針を踏まえながら、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。 | 学習指導案の作成 | 120 |
| 11 | 学習指導案の作成③ | 作成した学習指導案についてグループで話し合い、ねらいを達成するための指導方法や手立てを検討する。 | 学習指導案の見直し | 120 |
| 12 | 模擬授業① | 実施した模擬授業について、発問構成や指導過程等を吟味・検討し、改善を加える。 | 発問構成と板書計画の作成 | 120 |
| 13 | 模擬授業② | 前時の振り返りをもとに模擬授業を行い、道徳科の授業づくりの実際についてその理解と実践的指導力の形成を図る。 | 学習指導案の改善と振り返り | 120 |
| 14 | 道徳科の評価 | 道徳科における評価のあり方や具体的な方法を整理・検討し、ワークシートに指導要録の評価文を書く。 | テキスト2 p 221～p 22 | 90 |
| 15 | 講義のまとめ | 本講義で学んだ道徳教育や道徳科のあり方について話し合い、学習指導の具体的なイメージをもとに授業内容を整理する。 | 授業内容の整理とまとめ | 60 |

《専門教育科目》

| | | | |
|-------|-------|----------|------------|
| 科目名 | 発達心理学 | 科目ナンバリング | T04L21089 |
| 担当者氏名 | 松田 信樹 | 担当形態 | 単独 |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2 ・ 選 |
| | | 開講年次・開講期 | 1 年 ・ II 期 |

《授業の概要》

人間の生涯に渡る発達の過程を理解することを目的とする。受胎の瞬間から始まり死をもって終結する一個人の発達の流れを、複数の発達段階に区分し、それぞれの発達段階における身体的・社会的・心理的発達の特徴を理解する。発達障害に関する基礎を理解することも目的とする。

《授業外学習》

参考図書として取り上げた図書を読むことを通して、授業で取り上げたテーマについて理解を深めてもらいたい。毎回の授業で配布する資料とテキストを復習し、授業で扱った重要事項について理解を深めること。

《テキスト》

『育ちと学びの心理学 ―こどもの成長に寄り添うために』
松田信樹（著） あいり出版 2018

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業内容の理解度を確認するための小テストで学習状況と理解度を確認する。

《参考図書》

『よくわかる発達心理学 [第2版]』 無藤隆・岡本裕子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2009

《備考》

Developmental Psychology
質問等には、オフィスアワーに対応する。

《授業の到達目標》

| ディプロマポリシーの能力 | 授業の到達目標 |
|---------------------------------|---|
| ◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力 | 発達心理学の基礎的事項を人間発達の具体例に即して説明することができる。 |
| ○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力 | 発達心理学の基礎的理解に基づき、教師としての教育的関わりについて論理的かつ実践的に考えることができる。 |
| | |
| | |
| | |

《成績評価の方法と評価の割合》

| 評価方法 (%) | |
|----------|-----|
| 試験 | 60 |
| 小テスト | 20 |
| レポート | 0 |
| 発表・実技 | 0 |
| 授業内課題 | 20 |
| その他 () | 0 |
| 合計 | 100 |

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など | 予習・復習等の内容 | 予習・復習等の時間 |
|----|-------------|---|--------------|-----------|
| 1 | 発達心理学への導入 | 心理学の学問上の特徴、そして発達心理学では何をどのような目的をもって学ぶのかを理解する。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 2 | 発達の定義と発達観 | 発達の定義について理解した上で、現代の心理学が描く発達観を明確にする。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 3 | 発達の規定要因 | 人間発達の規定因は何かという問いを立て、遺伝要因と環境要因の観点から答えを探究する。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 4 | 胎児期から新生児期 | 胎児の発達について、母体内環境の重要性に焦点を当てて学ぶ。新生児が秘める能力についても学ぶ。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 5 | 新生児期から乳児期 | 赤ちゃんに生得的に備わっている特徴と、出生後1年間の赤ちゃんの発達について学ぶ。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 6 | 乳児期から幼児期① | 乳幼児期の発達について、母子関係の形成と深化の観点から学ぶ。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 7 | 乳児期から幼児期② | 乳幼児期の発達について、言語発達と遊びの発達の観点から学ぶ。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 8 | 中間テストの実施と解説 | 発達観、発達の規定因、胎児期から乳幼児期までの心理的発達について、テストを通しての振り返りを行う。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 9 | 幼児期から児童期 | 幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェ理論に依拠しつつ理解する。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 10 | 児童期① | 児童期の発達について、人間関係の発達に焦点を当てて学ぶ。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 11 | 児童期② | 児童期の発達について、学業に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 12 | 青年期 | 青年期の発達について、アイデンティティの形成を鍵概念として理解する。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 13 | 成人期 | 成人期の発達について、親としての成長ならびに中年期危機に中心に学ぶ。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 14 | 発達のつまずきと歪み | 発達のつまずきと歪みについて理解し、発達障害をどのように捉えるべきかを考える。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |
| 15 | 期末テストの実施と解説 | 幼児期から成人期までの心理的発達、ならびに発達障害について、テストを通しての振り返りを行う。 | 授業資料とテキストの復習 | 60 |